

共 通 科 目

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	科目責任者
看護理論特論	M11001	2 (30)	選択	1	前期	
担当教員 職位・氏名	教授 岡田 実					
授業概要	看護実践で行われている看護援助方法の主要な理論的背景について学ぶ。看護実践の基盤となる看護論としてナイチンゲール看護論、ヘンダーソン看護論、ベナー看護論、オレム看護論、ロイ看護論、M. ニューマン看護論、ワトソン看護論について理解と考察を深め、看護実践を充実し発展させる方法を学修する。また、各自の看護体験と看護理論との関係について考察し、看護理論を活用して看護実践を展開する方法を探究する。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護援助に関する主要な理論について理解することができる。 2. 各自の看護実践の理論的基盤を明確にすることができる。 3. 看護理論を活用して看護実践を展開する方法を身につけることができる。 					
キーワード	看護理論、看護実践、看護援助方法、理論適用					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授業内容・授業方法			授業前後 の学習	担当
1	看護理論とは 看護に関する理論の概要	講義、各自の看護体験と看護理論の関連についてディスカッション			授業項目の 事前学習	
2	ナイチンゲール看護論	各自の理論や概念についてのプレゼンテーションとディスカッション			授業項目の 事前学習	岡田
3	ナイチンゲール看護論の看護実践への適用	各自の理論や概念についてのプレゼンテーションとディスカッション			授業項目の 事前学習	岡田
4	ヘンダーソン看護論	各自の理論や概念についてのプレゼンテーションとディスカッション			授業項目の 事前学習	岡田
5	ヘンダーソン看護論の看護実践への適用	各自の理論や概念についてのプレゼンテーションとディスカッション			授業項目の 事前学習	岡田
6	ベナー看護論①	各自の理論や概念についてのプレゼンテーションとディスカッション			授業項目の 事前学習	岡田
7	ベナー看護論②	各自の理論や概念についてのプレゼンテーションとディスカッション			授業項目の 事前学習	岡田
8	ベナー看護論の看護実践への適用	各自の理論や概念についてのプレゼンテーションとディスカッション			授業項目の 事前学習	岡田
9	オレム看護論	看護理論の文献のプレゼンテーションとディスカッション			授業項目の 事前学習	
10	オレム看護論の看護実践への適用	看護理論の文献に関連した看護体験のプレゼンテーションとディスカッション			授業項目の 事前学習	

11	ロイ看護論	看護理論の文献のプレゼンテーションとディスカッション	授業項目の事前学習	
12	ロイ看護論の看護実践への適用	看護理論の文献に関連した看護体験のプレゼンテーションとディスカッション	授業項目の事前学習	
13	M. ニューマン看護論	看護理論の文献のプレゼンテーションとディスカッション	授業項目の事前学習	
14	M. ニューマン看護論の看護実践への適用	看護理論の文献に関連した看護体験のプレゼンテーションとディスカッション	授業項目の事前学習	
15	ワトソンのケアリング理論	看護理論の文献および文献に関連した看護体験のプレゼンテーションとディスカッション	授業項目の事前学習	
履修条件		特になし		
教科書・参考図書等		筒井真優美編集：看護理論家の業績と評価、医学書院、2015 筒井真優美編集：看護理論改訂第2版、南江堂、2015 Patricia Benner: From Novice to Expert; Excellence and Power in Clinical Nursing Practice, Prentice Hall, 2001 シヨーン著、佐藤学・秋田清美訳：専門家の知恵—反省的実践家は行為しながら考える、ゆみる出版 D. E. Orem, 小野寺杜紀訳：オレム看護論 看護実践における基本概念 第4版 医学書院, 2005 C ロイ著、松木光子訳：ロイ適応モデル序説、メディカルフレンド社、1981 ジーン ワトソン：ワトソン看護論 人間科学とヒューマンケア、稲岡文昭他訳、医学書院、1992 Margaret A. Newman 手島恵訳：マーガレット・ニューマン看護論、医学書院、2011.		
成績評価方法		プレゼンテーション及びディスカッション70% レポート30%		

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	担当教員 職位・氏名
看護研究方法特論	M11002	2 (30)	必修	1	前期	教授 勝野とわ子
授業概要	看護学における科学的な研究のプロセス（看護における研究の役割、科学的アプローチ、理論やモデルに基づく研究疑問の立て方など）を理解し、研究用語、研究デザインおよび研究方法についての理解を深める。また、論文の批判的検討能力を高めるとともに、看護実践の場への研究の応用能力の基礎を養う。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護学における科学的な研究のプロセスについて説明できる。 2. 量的研究デザインと質的研究デザインについて説明できる。 3. 量的研究と質的研究のクリテイク基準を理解し実践できる。 4. 質的研究のデータ収集法と分析方法について理解を深める。 					
キーワード	科学的研究プロセス、質的研究、量的研究、クリテイク					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授業内容・授業方法			授業前後 の学習	担当
1	オリエンテーション	(講義)			教科書	勝野
2	科学とは？ 看護研究のプロセス	看護学の科学的意義および研究のプロセス (講義)			教科書、資料	勝野
3	研究デザイン：量的研究	調査研究、準実験研究、純実験研究デザイン (講義)			教科書、資料	勝野
4	研究デザイン：質的研究	現象学、ethnography, grounded theory (講義)			教科書、資料	勝野
5	研究方法：データ収集方法	質的データ：観察法、インタビュー法など (講義) 量的データ：質問紙 (講義)			教科書、資料	勝野
6	研究論文のクリテイクの意義と方法	クリテイクの方法の理解 (講義)			教科書、資料	勝野
7	研究論文のクリテイクの実際 (質的研究)	質的研究論文をクリテイクする (演習、ゼミ)			資料	勝野
8	研究論文のクリテイクの実際 (量的研究)	量的研究論文をクリテイクする (演習、ゼミ)			資料	勝野
9	質的研究データ分析方法	実際の質的データを分析する (講義、ゼミ)			教科書、資料	勝野
10	質的研究プロジェクト①	プロジェクトで実施する研究疑問、研究方法を考察する (演習)			教科書、資料	勝野
11	質的研究プロジェクト②	対象者の選定と依頼方法について考察する (演習)			教科書、資料	勝野
12	質的研究プロジェクト③	データ収集と分析 (演習)			教科書、資料	勝野
13	質的研究プロジェクト④	まとめ (演習)			教科書、資料	勝野
14	質的研究プロジェクト発表①	プロジェクト研究成果発表と討論 (ゼミ、講義)			教科書、資料	勝野
15	質的研究プロジェクト発表②	プロジェクト研究成果発表と討論 (ゼミ、講義)			教科書、資料	勝野

履修条件	なし
教科書・参考図書等	<ol style="list-style-type: none"> 1. Polit, D.F.&Hungler, B.P. Nursing Research: Plinciples and Methods. J.B. Lippincott. 2. D.F.ポーリット & C.T. ベック著 近藤潤子監訳：看護研究:原理と方法 (第2版)、医学書院. 3. Morse, J.M. Qualitative nursing Research: A contemporary dialogue. Sage. 4. Krippendorff, K. Content analysis: An introduction to its methodology. Sage. <p>その他必要に応じて提示する。</p>
成績評価方法	課題レポート (80%) と授業への貢献度 (20%) を総合して評価する。

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	科目責任者
臨床倫理特論	M11003	2 (30)	必修	1	後期	教授 清水哲郎
担当教員 職位・氏名	教授 清水哲郎、濱中喜代 講師 石井真紀子					
授業概要	臨床現場で看護師をはじめとして医療従事者が患者本人や家族と向き合い・寄り添いながら医療・ケアを進める中で生じる問題に、多職種が協働して対応する際の要となる「どうしたらよいか」を考える営みを臨床倫理という。本講では看護における倫理的な概念の振り返りを行う。履修者が臨床で遭遇した事例を出し合い、看護学領域・人文社会系領域の教員がスーパーバイズする事例検討を行う。モデル事例を用いて倫理的課題の検討方法について理論的・実践的な理解を深める。多職種の中で臨床倫理を進める能力を修得する。さらに事例検討から得られた臨床倫理能力を発展させる方法についても学修する。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床現場で医療・ケアを進める中で生じる問題について説明できる。 2. 看護における倫理的な概念について説明できる。 3. 臨床で遭遇した事例を振り返り、倫理的な課題やその解決方法を考えることができる。 4. モデル事例を用いた倫理的課題の検討方法について、理論的・実践的に説明できる。 5. 臨床倫理能力を発展させるための個人・集団における具体的な方法を身につけることができる。 					
キーワード	倫理的課題、倫理的な概念、事例検討の方法、臨床倫理能力、多職種協働					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授業内容・授業方法	授業前後 の学習	担当		
1	臨床倫理の守備範囲と目指すもの	臨床倫理・講義	参考文献の精読	清水・濱中		
2	医療・ケアを進める中で生じる問題①(本人・家族の意思決定支援)	意思決定支援・講義	参考文献の精読	清水		
3	医療・ケアを進める中で生じる問題②(倫理的課題)	倫理的課題・講義	参考文献の精読	濱中・石井		
4	看護における倫理的な概念①: ケアリング・コンパッション	倫理的概念・演習: 調べ学習とプレゼンテーション	調べ学習 プレゼンテーション準備	濱中		
5	看護における倫理的な概念②: アドボカシー・パートナーリズム	倫理的概念・演習: 調べ学習とプレゼンテーション	調べ学習 プレゼンテーション準備	濱中		
6	看護における倫理的な概念③: インフォームドコンセント・守秘義務	倫理的概念・演習: 調べ学習とプレゼンテーション	調べ学習 プレゼンテーション準備	石井		
7	臨床で遭遇した事例の振り返り①	演習 GW	自己の経験を振り返りレポート作成	濱中・石井		
8	臨床で遭遇した事例の振り返り②	演習 GW	同上	濱中・石井		
9	臨床で遭遇した事例の振り返り③	演習 GW	同上	濱中・石井		
10	事例検討の方法: 理論編	講義	参考文献の精読	清水		
11	事例検討の方法: 実践編1 (チーム連携)	演習: 事例展開 GW	事例事前に記述	濱中・石井		
12	事例検討の方法: 実践編2 (多職種連携)	演習: 事例展開 GW	同上	濱中・石井		
13	臨床倫理能力を発展させる方法: 個人 (自己研鑽)	講義	関連文献の読み込み	濱中		
14	臨床倫理能力を発展させる方法: 集団 (ファシリテーション)	講義・演習 GW	同上	清水・濱中		
15	まとめ	講義・演習	同上	清水・濱中		

履修条件	特になし
教科書・参考図書等	清水哲郎 看護学生のための哲学・倫理学・死生学 2019 石垣靖子、清水哲郎編著：臨床倫理ベーシックレッスン 日本看護協会出版会 2012 鶴若麻理、麻原きよみ編：ナラティブでみる看護倫理 南江堂 2013
成績評価方法	事前事後学習・プレゼンテーション 20% 振り返りレポート 30% GW 貢献度 20% 最終レポート 30%

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	科目責任者
多職種連携特論	M11004	2 (30)	必修	1	後期	教授 鈴木るり子
担当教員 職位・氏名	教授 鈴木るり子 講師 相澤 出					
授業概要	地域包括ケアが研究上の論点としても、ケアの実践上のテーマとしても、さらには政策においても注目される今日にあって、多職種連携について考えることは避けられない。臨床や在宅など多様なケアの現場において、患者と家族のQOLを維持、向上させるためには多種多様な専門職の連携が求められる。そこで本講義では、多職種連携を理論的に考察する視点を学び、多職種連携に関する我が国の現状と課題の理解を進めていく。内容としては、チームケアや多職種連携を考えるための基礎的理論の検討や、チームケア、地域内連携の事例検討によって理解を深める。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1、ケアに携わる専門職の特徴について理解し、他者にも説明ができる。 2、現代のチームケアのあり方について理解し、他者にも説明ができる。 3、チームケアにおける患者及び家族との協働について理解し、他者にも説明ができる。 4、チームケアの実態を、組織論など講義内容の観点に即して考察することができる。 5、地域内における他領域との連携の意義について理解し、地域におけるケアシステムのあり方について批判的な検討ができる。 					
キーワード	専門職・チームケア・QOL・地域包括ケアシステム					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授業内容・授業方法		授業前後 の学習	担当	
1	はじめに：本講義の概要	本講義の概要、全体像についての説明（講義）		受講者の問題関心等を尋ねる。	共同	
2	多職種連携を捉える視点①	専門職論に関する社会学的な視点についての解説（講義）		事前に講義資料等を読んでおくこと。	相澤	
3	多職種連携を捉える視点②	専門職と患者の関係を捉える社会学的な視点についての解説（講義）		事前に講義資料等を読んでおくこと。	相澤	
4	多職種連携を捉える視点③	患者中心の医療という視点の登場についての解説（講義）		事前に講義資料等を読んでおくこと。	相澤	
5	多職種連携を捉える視点④	チーム医療に関する医療社会学的な研究の概要についての解説（講義）		事前に講義資料等を読んでおくこと。	相澤	
6	多職種連携を捉える視点⑤	実践共同体としてチームを捉える視点についての解説（講義）		事前に講義資料等を読んでおくこと。	相澤	

7	多職種連携を捉える視点⑥	実践共同体における実践知のあり方についての解説（講義）	事前に講義資料等を読んでおくこと。	相澤
8	多職種連携の理解①	チームケアにおける看護職の役割と意義についての（講義）	事前に講義資料等を読んでおく	鈴木
9	多職種連携の理解②	ケアをめぐる看護職と他分野の専門家との連携について（講義）	事前に講義資料等を読んでおく	鈴木
10	多職種連携の理解③	医療専門職間の連携についての事例検討（演習・GW）	事前に講義資料等を読んでおく	鈴木
11	多職種連携の理解④	医療と介護の連携についての事例検討（演習・GW）	事前に講義資料等を読んでおく	鈴木
12	多職種連携の理解⑤	医療と福祉の連携についての事例検討（演習・GW）	事前に講義資料等を読んでおく	鈴木
13	多職種連携の理解⑥	医療・福祉と行政の連携についての事例検討（演習・GW）	事前に講義資料等を読んでおく	鈴木
14	地域における多職種連携のまとめ	地域内連携および他職種、他領域の専門職との連携の可視化について（プレゼンテーション） （講義・演習・GW）	プレゼンテーションできるように事前準備をしておく	鈴木
15	おわりに：本講義のふりかえり	本講義の全体的なふりかえり （講義・演習）	特になし	共同
履修条件		特になし		
教科書・参考図書等		細田満和子、2012、『チーム医療とは何か』日本看護協会出版会 田村由美、2018、『新しいチーム医療 改訂版』看護の科学社 その他、担当講師が準備する資料		
成績評価方法		授業態度（20%）、プレゼンテーション（20%）、グループワークへの参加度（20%）、課題提出（20%）、レポート（20%）から評価する		

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	担当教員 職位・氏名
統計学特論	M11005	2 (30)	選択	1	前期	特任講師 大井 慈郎
授業概要	保健医療の場や看護研究において必要となる推測統計の基礎を身につける。具体的には、調査手法の種類、推定と検定の考え方などを学修し、データの性質に応じた統計手法の選択・分析する能力の修得を目標とする。講義形式ではあるが、調査法選択・分析を体験しながら、調査手法と統計知識の定着を図る。					
到達目標	1. 統計分析の流れと種類を理解し、適切に使用できる。 2. 統計ソフト SPSS のを用いて基礎的な多変量解析を行うことができる。					
キーワード	社会調査、量的調査、SPSS					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授業内容・授業方法			授業前後 の学習	担当
1	社会調査と分析の流れ	記述統計と推測統計				大井
2	SPSS 操作の基礎 I	データセットの操作				大井
3	SPSS 操作の基礎 II	グラフの作成				大井
4	推測統計 I	平均の差の検定 I				大井
5	推測統計 II	平均の差の検定 II			授業後、提出 課題あり	大井
6	推測統計 III	相関と偏相関			授業後、提出 課題あり	大井
7	推測統計 IV	クロス表とエラボレーション			授業後、提出 課題あり	大井
8	多変量解析 I	回帰分析 I				大井
9	多変量解析 II	回帰分析 II			授業後、提出 課題あり	大井
10	多変量解析 III	ダミー変数と交互作用効果			授業後、提出 課題あり	大井
11	多変量解析 IV	主成分分析と因子分析			授業後、提出 課題あり	大井
12	多変量解析 V	パス解析			授業後、提出 課題あり	大井
13	多変量解析 VI	二項ロジスティック回帰分析 I				大井
14	多変量解析 VII	二項ロジスティック回帰分析 II			授業後、提出 課題あり	大井
15	総合演習	全体の復習と総括				大井
履修条件	統計の基礎知識が必要となる。学部の2授業「調査と統計」「看護研究方法論」の内容を理解していることが望ましい。					
教科書・参考図書等	村瀬洋一・高田洋・広瀬毅士, 2007, 『SPSS による多変量解析』 オーム社。					

成績評価方法	毎授業後の提出物 (30%)、複数回の小テスト (20%)、複数回の課題 (50%)
--------	--

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	担当教員 職位・氏名
質的研究方法特論	M11006	2 (30)	選択	1	前期	講師 相澤 出
授業概要	<p>広く質的研究法とされるさまざまな方法について、専門的な解説・紹介を行う。人間と社会をめぐる事象における個別具体的な側面に着目し、そこにアプローチしようとする方法はさまざまある。本科目では、ある地域、ある人の人生の個性ある歴史的側面に注目する方法や、ある文化を共有した人々、あるいはある特定の個人の生活世界にアプローチする方法に立ち入り、その思想的背景などもふまえながら解説を行う。</p>					
到達目標	<p>これまでの社会学（それ以前の社会思想史的な部分も含みつつ）の領域で、人間の行為とその意味の理解に関する、基本的な議論を理解し、説明できるようになること。</p>					
キーワード	行動、実証主義、行為、意味、理解、モノグラフ、生活世界、ライフヒストリー					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授業内容・授業方法		授業前後 の学習	担当	
1	はじめに	講義の概要及び受講者の関心の所在の確認（講義）		受講に当たっての問題関心を考えてくること。	相澤	
2	「人間本性」に関する研究の歴史①	T. パーソンズの議論を踏まえた T. ホップズの間観についての解説（講義）		講義中に配布した資料等の復習を行うこと。	相澤	
3	「人間本性」に関する研究の歴史②	パーソンズの議論を踏まえた J. ロックの間観についての解説（講義）		講義中に配布した資料等の復習を行うこと。	相澤	
4	「人間本性」に関する研究の歴史③	社会科学の歴史における「実証主義」的人間像についての解説（講義）		講義中に配布した資料等の復習を行うこと。	相澤	
5	歴史主義の登場とその視点の特徴	実証主義的な人間像に対抗して出現した人間や社会の捉え方についての解説（講義）		講義中に配布した資料等の復習を行うこと。	相澤	
6	行動の説明から行為の理解へ	M. ヴェーバーの社会科学論を踏まえた行為の意味に注目する視点についての解説（講義）		講義中に配布した資料等の復習を行うこと。	相澤	
7	理解社会学の視点	社会学における行為の意味へのアプローチについての解説（講義）		講義中に配布した資料等の復習を行うこと。	相澤	

8	相互行為の場に注目する視点①	同時代に発達したアメリカのシカゴ学派の社会学における、ミクロな視点の社会学とそこでの社会調査についての解説 (講義)	講義中に配布した資料等の復習を行うこと。	相澤
9	相互行為の場に注目する視点②	前回に続き、シカゴ学派の理論とモノグラフ研究についての解説 (講義)	講義中に配布した資料等の復習を行うこと。	相澤
10	シンボリック相互作用論とグラウンデッドセオリー	シカゴ学派の理論的所産としてのグラウンデッドセオリーについての解説 (講義)	講義中に配布した資料等の復習を行うこと。	相澤
11	生活世界へのアプローチ	A. シュッツの議論をもとに、理解社会学、現象学、さらにはアメリカの社会学の視点による「生活世界」の論じ方についての解説 (講義)	講義中に配布した資料等の復習を行うこと。	相澤
12	地域の個性へのアプローチ	シカゴ学派のモノグラフ、日本の社会学における村落研究のモノグラフ研究など、フィールドワークをめぐる社会学の学説史についての解説 (講義)	講義中に配布した資料等の復習を行うこと。	相澤
13	人の個性へのアプローチ	ライフヒストリー研究の視点についての解説 (講義)	講義中に配布した資料等の復習を行うこと。	相澤
14	ライフヒストリーとライフストーリー	近年におけるライフストーリー論の登場とライフヒストリー研究との関係性についての解説 (講義)	講義中に配布した資料等の復習を行うこと。	相澤
15	おわりに	本講義の内容のふりかえり (講義)		相澤
履修条件		看護研究方法特論を履修していること		
教科書・参考図書等		教科書は特に指定はない。参考図書については、講義中に適宜紹介する。		
成績評価方法		講義への参加状況 (30%) とレポート (70%) によって評価する。		

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	担当教員 職位・氏名
医療社会学特論	M11007	2 (30)	選択	1	後期	講師 相澤 出
授業概要	医療社会学の基礎について学修する。医療社会学の基礎を築いたのが、T. パーソンズである。パーソンズは20世紀における社会学の巨人であるが、彼は医療社会学の先駆者でもあった。彼が提示した議論は、後にはさまざまな研究者から批判を受けるところもあるが、いずれ肯定的にであれ、否定的にであれ、避けては通れない存在である。そこでパーソンズの議論（さらにはそれに対する批判）を学ぶことを通じて、医療社会学の基礎に関する理解を深める。					
到達目標	医療社会学の基礎的な議論、基本的な概念について理解を深め、それについて説明できるようになることを目指す。					
キーワード	行為論、機能主義、価値、役割、病人、専門職、合議制アソシエーション、患者の権利					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授業内容・授業方法		授業前後 の学習	担当	
1	はじめに—医療社会学の出発点	本講義の概要の解説 受講者の問題関心の所在確認 (講義)		受講に当た っての問題 関心を考え てくること。	相澤	
2	行為論における実証主義と理想主義	医療社会学の基礎としての行為 論の解説 (講義)		講義中に配 布した資料 等の復習を 行うこと。	相澤	
3	行為論と機能主義の視点	パーソンズの社会学の理論構成 上の要点としての行為論と機能 主義の解説 (講義)		講義中に配 布した資料 等の復習を 行うこと。	相澤	
4	社会学における役割論	パーソンズの理論における役割 論の理論的背景の解説 (講義)		講義中に配 布した資料 等の復習を 行うこと。	相澤	
5	役割論と社会システム論	パーソンズの社会システム論の 基本的な構図の解説 (講義)		講義中に配 布した資料 等の復習を 行うこと。	相澤	
6	医療社会学における「病人役割」	医療社会学における基礎概念と しての病人役割と、その問題点 の解説 (講義)		講義中に配 布した資料 等の復習を 行うこと。	相澤	
7	「病い」を捉える社会学的視点	「病い」の社会学的なとらえ方 について、パーソンズの議論と それ以外の議論の解説 (講義)		講義中に配 布した資料 等の復習を 行うこと。	相澤	

8	パーソンズの医療専門職とそれに対する批判	医療専門職をめぐるパーソンズの議論と、その後に見れた専門職論の解説 (講義)	講義中に配布した資料等の復習を行うこと。	相澤
9	社会や集団に共有された価値のとらえ方	社会や集団における、規範の基礎、社会的役割の土台となる、共有された価値のとらえ方の解説 (講義)	講義中に配布した資料等の復習を行うこと。	相澤
10	医師—患者関係への社会学的アプローチ	医療現場における専門職と患者の関係の理解のための、医師—患者関係、および社会的コントロールをめぐる議論の解説 (講義)	講義中に配布した資料等の復習を行うこと。	相澤
11	医療現場の組織論としての官僚制論	医療現場と関係する、あるいは医療専門職が職務を遂行する上で関係する現代社会の組織形態としての官僚制の解説 (講義)	講義中に配布した資料等の復習を行うこと。	相澤
12	医療現場の組織論としての合議制アソシエーション論	官僚制組織とは異なる、現代の専門職の組織のあり方としての合議制アソシエーションの解説 (講義)	講義中に配布した資料等の復習を行うこと。	相澤
13	患者の権利の位置づけ	患者の権利に関するパーソンズの医療社会学の議論の解説 (講義)	講義中に配布した資料等の復習を行うこと。	相澤
14	医療思想の変化	現代社会の医療現場における患者を中心とした医療のあり方、多職種の連携に関するパーソンズの視点の解説 (講義)	講義中に配布した資料等の復習を行うこと。	相澤
15	医療における死の問題	パーソンズの医療社会学において、死の問題がどのように議論されているかの解説 (講義)	講義中に配布した資料等の復習を行うこと。	相澤
履修条件		特になし。		
教科書・参考図書等		高城和義『パーソンズ—医療社会学の構想』岩波書店		
成績評価方法		講義への参加状況 (30%) とレポート (70%) によって評価する。		

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	科目責任者
フィジカルアセスメント特論	M11008	2 (30)	選択	1	前期	
担当教員 職位・氏名	教授 江守陽子					
授業概要	健康問題をもった対象者の身体状況をアセスメントし、臨床看護判断を行うために必要な知識と技術を修得する。フィジカルアセスメントの目的・方法・必要性についての理解を基盤として、フィジカルアセスメントを活用した適切な情報を収集・分析し包括的なアセスメントから特定の問題を明確化できるコミュニケーション技術を身につけ、臨床判断を行う基礎的能力を養う。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 健康問題をもつ個人を対象とするフィジカルアセスメントの目的・方法・必要性について説明できる。 フィジカルアセスメントを活用した適切な情報収集・分析ができる。 包括的なアセスメントから特定の問題を明確化できるコミュニケーション技術を身につけ、臨床判断を行う基礎的能力を身につけることができる。 					
キーワード	フィジカルアセスメント、健康問題、包括的なアセスメント					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授 業 内 容 ・ 授 業 方 法			授 業 前 後 の 学 習	担 当
1	フィジカルアセスメントの意義 必要な知識・技術 診査方法	講義・演習			授業項目の 予習	
2	頭部・頸部・感覚器系のアセスメント	講義・演習			授業項目の 予習	
3	胸部(心臓・血管系)のアセスメント	講義・演習			授業項目の 予習	
4	胸部(呼吸器・乳房)のアセスメント	講義・演習			授業項目の 予習	
5	腹部のアセスメント	講義・演習			授業項目の 予習	
6	骨・筋肉系のアセスメント	講義・演習			授業項目の 予習	
7	神経系のアセスメント	講義・演習			授業項目の 予習	
8	女性の生殖器と性機能のアセスメント(生殖器と 性機能に関する問診・視診・触診・聴診・計測診 の方法)	講義・演習			授業項目の 予習	江守
9	女性の生殖器と性機能のアセスメント(性行動・ 性に関する問診・視診・触診・計測診)	講義・演習			授業項目の 予習	江守
10	内科疾患(呼吸器系)が疑われる患者のフィジカル アセスメント	看護事例のプレゼンテーション と討議			看護事例を まとめる	
11	内科疾患(消化器系)が疑われる患者のフィジカル アセスメント	看護事例のプレゼンテーション と討議			看護事例を まとめる	
12	外科疾患(脳外科系)が疑われる患者のフィジカル アセスメント	看護事例のプレゼンテーション と討議			看護事例を まとめる	

13	外科疾患（消化器外科系）が疑われる患者のフィジカルアセスメント	看護事例のプレゼンテーションと討議	看護事例をまとめる	
14	フィジカルアセスメントで得られたデータの統合と看護における臨床判断 事例検討①	看護事例のプレゼンテーションと討議	看護事例をまとめる	
15	フィジカルアセスメントで得られたデータの統合と看護における臨床判断 事例検討②	看護事例のプレゼンテーションと討議	看護事例をまとめる	
履修条件		特になし		
教科書・参考図書等		<p>小野寺千枝子監修：実践！フィジカル・アセスメント，金原出版，2008.</p> <p>上田剛士：ジェネラリストのための内科診断リファレンス：エビデンスに基づく究極の診断学をめざして，医学書院，2014.</p> <p>北野正剛：標準外科学第15版，医学書院，2019.</p> <p>授業で紹介する。</p>		
成績評価方法		プレゼンテーションと討議内容 50% レポート 50%		

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	担当教員 職位・氏名
コンサルテーション 特論	M11009	2 (30)	選択	1	後期	教授 岡田 実
授業概要	多様な臨床で展開されている高度実践看護師などによるコンサルテーションの活動から、コンサルタントに必要な専門的な役割とその能力を学修し、看護実践家として自身の所属する臨床現場において適応可能なコンサルタント的な役割を検討する。関連して、組織全体を見通すことによって、学習し変革を遂げる組織であるための問題と課題を検討し、組織における自身の役割を検討する。					
到達目標	①自身の所属する組織が現在置かれている時代状況（経営と医療政策）を理解する。 ②組織が抱えているコンサルテーションのニーズを組織段階別に理解する。 ③看護実践の開発と看護人材育成の双方に看護研究が密接に関係していることを理解する。 ④所属する組織における自身の役割発揮の計画と立案ができる。					
キーワード	病院経営，診療報酬改定，地域包括ケア，コンサルテーション（個人・チーム・管理職・看護部），看護研究，看護実践，人材育成，専門多職種連携，病棟・病院における役割					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授業内容・授業方法			授業前後 の学習	担当
1	精神科病院が組織として迎えている時代状況 ①	診療報酬と病院経営の課題（講義）			問題提起とディスカッション	岡田
2	精神科病院が組織として迎えている時代状況 ②	病院組織の課題（講義）			同上	岡田
3	地域包括ケアが求める医療政策と現状	地域包括ケア構想と現状（講義）			同上	岡田
4	コンサルテーションのニーズ ①	看護職個人が抱える問題と課題（講義）			同上	岡田
5	コンサルテーションのニーズ ②	看護チームが抱える問題と課題（講義）			同上	岡田
6	コンサルテーションのニーズ ③	病棟が抱える問題と課題（講義）			同上	岡田
7	コンサルテーションのニーズ ④	中間管理職が抱える問題と課題（講義）			同上	岡田
8	コンサルテーションのニーズ ⑤	看護管理者が抱える問題と課題（講義）			同上	岡田
9	学習し変革を遂げる病院における役割 ①	PDCA サイクルを回す看護実践（講義）			同上	岡田
10	学習し変革を遂げる病院における役割 ②	看護実践と看護研究の連結（講義）			同上	岡田
11	学習し変革を遂げる病院における役割 ③	看護研究と人材育成の連結（講義）			同上	岡田
12	学習し変革を遂げる病院における役割 ④	看護介入プログラムの開発（講義）			同上	岡田
13	学習し変革を遂げる病院における役割 ⑤	専門多職種との連携形態（講義）			同上	岡田
14	熟達した看護師としての役割 ①	病院組織における役割（総括）（講義）			まとめ	岡田
15	熟達した看護師としての役割 ②	看護部組織における役割（総括）（講義）			同上	岡田

履修条件	特になし
教科書・参考図書等	<ul style="list-style-type: none"> ・P. ベナー著，井部監訳：ベナー看護論（新訳版）―初心者から達人へ，医学書院 ・西村ユミ著：看護実践の語り―言葉にならない営みを言葉にする，新曜社 ・同上：語りかける身体―看護ケアの現象学，講談社学術文庫 ・同上：看護師たちの現象学―協働実践の現場から，青土社 ・金井壽宏・楠見孝編：実践知―エキスパートの知性，有斐閣 ・畑村洋太郎著：失敗学のすすめ，講談社文庫
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・課題提起時の文献検討（20%）とメンバー間のディスカッション（20%）への参加姿勢（20%）を評価します。 ・自身の所属組織における課題と役割に関するレポート作成（40%）を評価します。 ・インターネットによるオンライン・ミーティングを使った遠隔授業への参加を認めます。

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	担当教員 職位・氏名
災害看護特論	M11010	2 (30)	必修	1	後期	教授 鈴木りり子
授業概要	<p>東日本大震災で甚大な被害を受けた岩手県をフィールドに、各国で多発する自然災害及び人為的災害（放射線等）に対して、災害時の復旧・復興期に対応する高度な専門知識、技術の理解を深め、その状況にふさわしい倫理観を身に付ける。</p> <p>また、国内外の災害現場における専門職者の講義を取り入れ、多様な災害現場における看護職の活動と災害に対する予防・減災・復旧・復興に対する看護活動について探究する。</p>					
到達目標	<p>6. 災害看護における概念及び災害看護能力を発展させるため具体的な方法を身につけることができる。</p> <p>7. 災害の歴史的背景と災害発生場所の地域診断を行い災害が生じる原因について理論的・実践的に説明できる。</p> <p>8. 東日本大震災の被災地を事例に災害予防・減災・復旧・復興に対するPDCA cycleに基づいた政策提言ができる。</p> <p>9. 被災地におけるSC (Social Capital) 醸成の事例を振り返り、看護者としてSC (Social Capital) の理論に基づいた実践、課題やその解決方法を考えることができる。</p> <p>10. 国内外の多様な現場における専門職者から看護職の災害活動の展望を探究できる。</p>					
キーワード	災害看護の概念、災害予防・減災・復旧・復興、政策提言、臨床倫理能力、Social Capital					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授業内容・授業方法		授業前後 の学習	担当	
1	災害看護の概念と必要とされる能力①	授業ガイダンス、 社会疫学的視点・臨床 倫理能力について (講義)		到達目標に対す る自己目標を作 成し講義に臨む	鈴木	
2	災害看護の概念と必要とされる能力②	被災地におけるSC・臨 床倫理能力について (講義)		事前に講義資料 を読んでおく	鈴木	
3	災害の歴史的背景と発生場所の地域診断、災害発生 原因の探求①	災害発生場所の地域診 断手法について (講義)		地域診断手法に ついて講義資料 を読んでおく	鈴木	
4	災害の歴史的背景と発生場所の地域診断、災害発生 原因の探求②	災害発生場所の地域診 断の実践 (演習・GW)		事前に講義資料 を読んでおく	鈴木	
5	災害の歴史的背景と発生場所の地域診断、災害発生 原因の探求③	災害発生場所の地域診 断の実践 (演習・GW)		事前に講義資料 を読んでおく	鈴木	
6	東日本大震災地の事例を基に災害予防・減災・復 旧・復興に対するPDCA cycleに基づいた政策提言	PDCA cycle および災害 予防・減災・復旧・復興 の政策提言のプロセス について・臨床倫理能 力について (講義)		フェーズ 0～5-2 別災害保健活動 について講義資 料を読んでおく	鈴木	

7	東日本大震災地の事例を基に災害予防・減災・復旧・復興に対するPDCA cycleに基づいた政策提言の作成①	災害予防・減災・復旧・復興の政策提言を4枚のスライドにまとめる (演習・GW)	事前に講義資料を読んでおく	鈴木
8	東日本大震災地の事例を基に災害予防・減災・復旧・復興に対するPDCA cycleに基づいた政策提言の作成②	災害予防・減災・復旧・復興の政策提言を4枚のスライドにまとめる (演習・GW)	事前に講義資料を読んでおく	鈴木
9	東日本大震災地の事例を基に災害予防・減災・復旧・復興に対するPDCA cycleに基づいた政策提言の作成③	災害予防・減災・復旧・復興の政策提言を4枚のスライドにまとめる (演習・GW)	事前に講義資料を読んでおく	鈴木
10	政策提言の災害予防・減災・復旧・復興の1項目を選び実践計画書の作成	実践計画書の作成プロセスおよび議会形式で行うプレゼンテーションについて (講義)	事前講義資料を読んでおく	鈴木
11	政策提言の災害予防・減災・復旧・復興の1項目を選び実践計画書を作成①	実践計画書の4枚のスライド作成 (演習・GW)	事前に講義資料を読んでおく	鈴木
12	実践計画書のプレゼンテーション	実践計画書のプレゼンテーション (演習)	プレゼンテーションできるように事前準備をしておく。	鈴木
13	ゲストスピーカーによる実践活動の探求①	(講義)	ゲストスピーカーの活動内容について事前に把握しておく	鈴木
14	ゲストスピーカーによる実践活動の探求②	(講義)	ゲストスピーカーの活動内容について事前に把握しておく	鈴木
15	まとめ 到達目標の評価	まとめ 到達目標の評価 (講義)	事前に到達目標の評価をしておく	鈴木
履修条件		特になし		
教科書・参考図書等		カワチイチロー他, 2017, 『社会疫学「上・下」』, 大修館書店 カワチイチロー他, 2008, 『ソーシャル・キャピタルと健康』, 日本評論社 御厨貴, 2016, 『大震災復興過程の政策分析』 ミネルヴァ書房 麻原きよみ他, 2018, 『保健師と放射線』 真興交易(株) 医書出版部 その他、担当講師が準備する資料		
成績評価方法		授業態度(20%)、プレゼンテーション(20%)、グループワークへの参加度(20%)、課題提出(20%)、レポート(20%)から評価する		

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	担当教員 職位・氏名
看護学教育特論	M11011	2 (30)	必修	1	後期	教授 江守陽子
担当教員 職位・氏名	教授 江守陽子、濱中喜代 准教授 土田幸子 講師 石井真紀子					
授業概要	看護職における看護基礎教育と継続教育の現状と課題について理解を深め、看護職への教育のあり方について探求する。具体的には、日本の看護教育制度の特徴、看護教育カリキュラムの変遷、と課題、生涯教育の観点から、成人学習に関する教育方法の基礎的理論を学ぶとともに、看護基礎教育および看護継続教育における教育プログラムの作成・教育内容・教材開発・教育評価の方法や留意点について学修する。 さらに、保健師助産師看護師学校養成所指定規則における教育の基本的な方向性、わが国の医療政策と看護教育課程に及ぼす影響、これからの看護の機能と教育のあり方などについても考察する。					
到達目標	1. 看護教育制度の現状について説明できる 2. 看護学教育の課題について自分の考えが説明できる 3. 主体的な学びを支援するような教育的関わりについて説明できる 4. 教育評価について説明できる。 5. 授業および看護実習指導のあり方について考えることができる 6. 成人学習者の特徴を理解し、説明することができる					
キーワード	看護教育制度、看護教育課程、教育評価、成人学習、看護基礎教育、看護継続教育、					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授業内容・授業方法		授業前後 の学習	担当	
1	日本の学校教育制度、日本の看護教育の歴史	社会の変遷と看護教育の変遷 これからの看護教育・講義		事前・事後の 自己学習	土田	
2	看護基礎教育の現状と課題①	教育の現状と課題の明確化・グループワーク		事前・事後の 自己学習	土田	
3	看護基礎教育の現状と課題②	教育課題への取り組み・グループワーク		事前・事後の 自己学習	土田	
4	看護継続教育の現状と課題① 教育制度の特徴と現状、大学院教育、卒業教育、新任教育、院内教育	継続教育の現状と課題の明確化・グループワーク		事前・事後の 自己学習	濱中	
5	看護継続教育の現状と課題② 認定看護師、専門看護師、特定看護師制度	継続教育の課題への取り組み・グループワーク		事前・事後の 自己学習	濱中	
6	看護学教育組織における現状と課題 組織の維持・FD (Faculty Development)	教育機関における学生の受け入れ・入学選抜、教育目的・目標の設定、教育内容の選定、組織運営・講義		事前・事後の 自己学習	濱中	
7	学習指導法 ①：授業案の作り方/授業の展開	授業展開論、学習のレディネス・講義		事前・事後の 自己学習	土田	
8	学習指導法 ②：学内演習、看護技術教育	授業形態と教育方法・講義		事前・事後の 自己学習	石井	
9	学習指導法 ③：臨床実習指導	看護学実習の位置づけと目的 看護学実習の課題・講義		事前・事後の 自己学習	濱中	

10	学習指導法 ④：臨床実習指導	各自の実習指導経験について ・プレゼンテーション・討議	事前・事後の 自己学習	濱中
11	看護教育評価法 教育評価の意義、方法、実際	教育課程の評価、教授活動の評 価、学生の授業評価・講義	事前・事後の 自己学習	江守
12	成人学習者の特徴と学習理論 ①	成人学習者の特徴と傾向 成人の生涯学習・講義	事前・事後の 自己学習	石井
13	成人学習者の特徴と学習理論 ②	成人教育とは何か ペダゴジーとアンドラゴジーの 比較・講義・各自の教育経験に ついてプレゼンテーション、講 義・グループワーク	事前・事後の 自己学習	石井
14	わが国の医療政策と看護教育の関係	わが国の医療提供体制と現状、 医療施設の再編と看護教育への 影響、医療政策と医療従事者の 育成・講義	事前・事後の 自己学習	江守
15	まとめ これからの看護教育の在り方について	学修成果の共有・講義・プレゼ ンテーション・討議	事前・事後の 自己学習	江守
履修条件		特になし		
教科書・参考図書等		その都度紹介する		
成績評価方法		授業態度 (20%)、グループワーク参加度 (40%)、課題学習 (20%)、レポート (20%) によって 評価する		

專 門 科 目

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	担当教員 職位・氏名
基礎看護学特論 I (看護援助学特論)	M21001	2 (30)	選択	1	前期	
授業概要	看護活動の場で実践されている看護援助の理論的背景について、主に中範囲理論としてペプロウ看護論、トラベルビー看護論、ストレス・コーピング理論、危機理論、ボディーイメージ・自己概念に関する理論、喪失・悲嘆に関する理論やリフレクションに関する理論を学び、看護実践への活用について学修する。自己の看護実践を理論と統合し、理論を活用して看護実践を展開する能力を養う。					
到達目標	1. 看護活動の場で実践されている看護援助の理論的背景について説明できる。 2. 自己の看護実践を理論と統合し、考察できる。					
キーワード	看護活動、看護援助、看護理論					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授業内容・授業方法			授業前後 の学習	担当
1	看護実践と看護援助の理論	講義				
2	ペプロウ看護論	文献のプレゼンテーションと討議			プレゼンテーションの準備	
3	ペプロウ看護論の看護実践への適用	文献と看護事例のプレゼンテーションと討議			プレゼンテーションの準備	
4	トラベルビー看護論	文献のプレゼンテーションと討議			プレゼンテーションの準備	
5	トラベルビー看護論の看護実践への適用	文献と看護事例のプレゼンテーションと討議			プレゼンテーションの準備	
6	ストレス・コーピング理論	文献のプレゼンテーションと討議			プレゼンテーションの準備	
7	ストレス・コーピング理論の看護実践への適用	文献と看護事例のプレゼンテーションと討議			プレゼンテーションの準備	
8	危機理論	文献のプレゼンテーションと討議			プレゼンテーションの準備	
9	危機理論の看護実践への適用	文献と看護事例のプレゼンテーションと討議			プレゼンテーションの準備	
10	ボディーイメージ・自己概念に関する理論	文献のプレゼンテーションと討議			プレゼンテーションの準備	

11	ボディイメージ・自己概念に関する看護実践への適用	文献と看護事例のプレゼンテーションと討議	プレゼンテーションの準備	
12	喪失・悲嘆に関する理論	文献のプレゼンテーションと討議	プレゼンテーションの準備	
13	喪失・悲嘆に関する理論の看護実践への適用	文献と看護事例のプレゼンテーションと討議	プレゼンテーションの準備	
14	リフレクションに関する理論	文献のプレゼンテーションと討議	プレゼンテーションの準備	
15	リフレクションに関する理論の看護実践への適用	文献と看護事例のプレゼンテーションと討議	プレゼンテーションの準備	
履修条件		特になし		
教科書・参考図書等		黒田裕子監修：看護診断のためのよくわかる中範囲理論第2版，学研メディカル秀潤社，2015. H. E. Peplau, (1952)／田八重子他訳：ペプロウ人間関係の看護論，医学書院，1973 Travelbee, J. (1971)／長谷川浩・藤枝知子訳：人間対人間の看護，医学書院，1974. 授業で紹介する		
成績評価方法		プレゼンテーションと討議内容70% レポート30%		

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	担当教員 職位・氏名
基礎看護学特論Ⅱ (アセスメント・実践論)	M21002	2 (30)	選択	1	後期	
授業概要	看護活動の場で実践されている看護援助技術について快適な環境をつくる技術、活動・運動を支援する技術、身体を清潔に保つための技術、食事・栄養摂取に関する技術、薬物療法に関する技術、健康学習を支援する技術や関心のある看護援助技術について文献検討及び根拠となる理論から分析・考察する。さらに根拠に基づく看護援助技術を提供するための方法を探究する。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護活動の場で実践されている看護援助技術の根拠となる理論について理解できる。 2. 根拠に基づく看護援助技術を提供する方法を説明できる。 					
キーワード	看護援助技術 背景理論					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授 業 内 容 ・ 授 業 方 法			授 業 前 後 の 学 習	担 当
1	看護援助技術とは 根拠に基づく看護技術研究の変遷	プレゼンテーションと討議			授業項目の 予習	
2	快適な環境をつくる技術	自身の看護体験のプレゼンテーションと討議			看護体験を まとめる	
3	物理学の理論と体位変換の看護技術との関連	文献のプレゼンテーションと討議			授業項目の 予習	
4	活動を支援する技術 生きがいに関する理論	自身の看護体験のプレゼンテーションと討議			看護体験を まとめる	
5	身体を清潔に保つ技術と皮膚の生理学的特徴との 関連	文献のプレゼンテーションと討議			授業項目の 予習	
6	清潔ケアが生体に及ぼす影響	自身の看護体験のプレゼンテーションと討議			看護体験を まとめる	
7	食事・栄養摂取を促す技術 健康と食事	文献のプレゼンテーションと討議			授業項目の 予習	
8	食事・栄養摂取を促す技術の背景理論 食事介助に関する理論	自身の看護体験のプレゼンテーションと討議			看護体験を まとめる	
9	薬物療法に関する技術の背景理論 根拠に基づく注射技術	文献のプレゼンテーションと討議			授業項目の 予習	
10	薬物療法に関する技術 安全な与薬のための理論	自身の看護体験のプレゼンテーションと討議			看護体験を まとめる	
11	健康学習を支援する技術の変遷	文献のプレゼンテーションと討議			授業項目の 予習	
12	健康学習を支援する技術の背景理論 健康学習を支援する技術の理論化の検討	自身の看護体験のプレゼンテーションと討議			看護体験を まとめる	
13	関心のある看護援助技術に関する背景理論の検討 ①	文献のプレゼンテーションと討議			文献検討	
14	関心のある看護援助技術に関する背景理論の検討 ②	自身の看護体験のプレゼンテーションと討議			看護体験を まとめる	
15	関心のある看護援助技術に関する背景理論の検討 ③	自身の看護体験のプレゼンテーションと討議			看護体験を まとめる	

履修条件	特になし
教科書・参考図書等	村中陽子他編：看護ケアの根拠と技術 第3版, 医歯薬出版, 2019. 授業で紹介する
成績評価方法	プレゼンテーション及び討議内容 70% レポート 30%

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	科目責任者
基礎看護学演習 I	M21003	2 (30)	選択	1	前期	
担当教員 職位・氏名	講師 石井真紀子					
授業概要	文献検索に必要な知識と技術と共に文献のクリティークを行う能力を養う。看護の対象者へ提供されている看護実践で行われている看護援助及び「看護理論特論」、「基礎看護学特論 I」、「基礎看護学特論 II」で学修する内容と関連する文献について量的研究、質的研究それぞれについてクリティークを行い研究成果と課題を考察する。					
到達目標	1. 文献検索に必要な知識と技術を修得する。 2. 文献のクリティークを行うことができる。					
キーワード	文献検索、文献検討、文献のクリティーク					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授業内容・授業方法		授業前後 の学習	担当	
1	看護実践で行われている看護援助についての文献検討(文献検索に必要な知識と技術)	文献検索に必要な知識と技術のプレゼンテーションと討議		プレゼンテーションの準備	共同	
2	看護実践で行われている看護援助についての文献検討(文献検索の実際)	文献のプレゼンテーションと討議		プレゼンテーションの準備	共同	
3	看護実践で行われている看護援助についての文献のクリティーク	文献のクリティークに関するプレゼンテーションと討議		プレゼンテーションの準備	共同	
4	看護技術のエビデンスに関する基礎的研究のクリティーク	文献のクリティークに関するプレゼンテーションと討議		プレゼンテーションの準備		
5	看護技術のエビデンスに関する臨床研究のクリティーク	文献のクリティークに関するプレゼンテーションと討議		プレゼンテーションの準備		
6	量的研究のクリティーク	量的研究のクリティークに関するプレゼンテーションと討議		プレゼンテーションの準備		
7	看護実践の実態調査に関する量的研究のクリティーク	量的研究の文献のクリティークに関するプレゼンテーションと討議		プレゼンテーションの準備		
8	看護援助に関する量的研究のクリティーク	量的研究の文献のクリティークに関するプレゼンテーションと討議		プレゼンテーションの準備		
9	質的研究のクリティーク	質的研究のクリティークに関するプレゼンテーションと討議		プレゼンテーションの準備	共同	
10	看護援助に関する質的研究のクリティーク①	質的研究の文献のクリティークに関するプレゼンテーションと討議		プレゼンテーションの準備	共同	

11	看護援助に関する質的研究のクリティーク②	質的研究の文献のクリティークに関するプレゼンテーションと討議	プレゼンテーションの準備	共同
12	看護援助の開発に関する質的研究のクリティーク	質的研究の文献のクリティークに関するプレゼンテーションと討議	プレゼンテーションの準備	共同
13	看護理論を活用した研究のクリティーク①	看護理論を活用した研究のクリティークに関する文献のプレゼンテーションと討議	プレゼンテーションの準備	共同
14	看護理論を活用した研究のクリティーク②	看護理論を活用した研究のクリティークに関する文献のプレゼンテーションと討議	プレゼンテーションの準備	
15	看護理論を活用した研究のクリティーク③	看護理論を活用した研究のクリティークに関する文献のプレゼンテーションと討議	プレゼンテーションの準備	
履修条件	基礎看護学特論 I を履修していること			
教科書・参考図書等	「看護理論特論」、「基礎看護学特論 I」、「基礎看護学特論 II」、「看護研究方法特論」で使用する参考書			
成績評価方法	プレゼンテーションと討議内容 70% レポート 30%			

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	担当教員 職位・氏名
基礎看護学演習Ⅱ	M21004	2 (30)	選択	1	後期	
授業概要	基礎看護学演習Ⅰで得られた研究成果と課題の分析から、自己の関心のある看護援助について文献のクリティークを行い研究成果や課題を考察し、自己の研究課題を明確化する。「看護研究方法特論」の学修を活用し、文献検討から研究課題を解くための研究方法を検討する。研究課題に即した研究デザインを検討し、研究計画書の作成を行う。					
到達目標	1. 文献のクリティークを行い研究成果や課題を考察することができる。 2. 研究計画書を作成できる。					
キーワード	文献検索、文献検討、文献のクリティーク、研究計画書					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授業内容・授業方法			授業前後 の学習	担当
1	自己の関心のある看護援助に関する文献検討	修論のテーマに関する文献のプレゼンテーションと討議			プレゼンテーションの準備	
2	自己の関心のある看護援助に関する国内の量的研究の文献検討	修論のテーマに関する国内文献のプレゼンテーションと討議			プレゼンテーションの準備	
3	自己の関心のある看護援助に関する海外の量的研究の文献検討	修論のテーマに関する海外文献のプレゼンテーションと討議			プレゼンテーションの準備	
4	自己の関心のある看護援助に関する量的研究の研究成果と課題	修論のテーマに関する研究成果と課題に関するプレゼンテーションと討議			プレゼンテーションの準備	
5	自己の関心のある看護援助に関する国内の質的研究の文献検討	修論のテーマに関する国内文献のプレゼンテーションと討議			プレゼンテーションの準備	
6	自己の関心のある看護援助に関する海外の質的研究の文献検討	修論のテーマに関する海外文献のプレゼンテーションと討議			プレゼンテーションの準備	
7	自己の関心のある看護援助に関する質的研究の研究成果と課題	修論のテーマに関する研究成果と課題に関するプレゼンテーションと討議			プレゼンテーションの準備	
8	研究計画書の作成① 研究課題の明確化	研究課題に関するプレゼンテーションと討議			プレゼンテーションの準備	
9	研究計画書の作成② 研究の理論的枠組みの検討	研究の理論的枠組みに関するプレゼンテーションと討議			プレゼンテーションの準備	
10	研究計画書の作成③ 研究デザイン	研究デザインに関するプレゼンテーションと討議			プレゼンテーションの準備	

11	研究計画書の作成④ 研究対象	研究対象に関するプレゼンテーションと討議	プレゼンテーションの準備	
12	研究計画書の作成⑤ 調査内容・測定用具	調査内容・測定用具に関するプレゼンテーションと討議	プレゼンテーションの準備	
13	研究計画書の作成⑥ データ収集方法・手順	データ収集方法・手順に関するプレゼンテーションと討議	プレゼンテーションの準備	
14	研究計画書の作成⑦ データ分析方法	データ分析方法に関するプレゼンテーションと討議	プレゼンテーションの準備	
15	研究計画書の作成⑧ 倫理的配慮の検討	研究の倫理的配慮に関するプレゼンテーションと討議	プレゼンテーションの準備	
履修条件		基礎看護学特論Ⅱを履修していること		
教科書・参考図書等		院生の関心領域に関する文献を授業で紹介する		
成績評価方法		プレゼンテーションと討議内容 50% 研究計画書 50%		

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	担当教員 職位・氏名
地域看護学特論 I (看護援助学特論)	M21005	2 (30)	選択	1	前期	教授 鈴木るり子
授業概要	地域社会で療養生活を営んでいる様々な対象者に、看護者として必要な知識・技術・倫理観について考察する。また、国内外の在宅看護の実際について分析し、我が国における新たな在宅看護の展開について探求する。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域社会で療養生活を営んでいる様々な対象者の保健・福祉・医療制度について説明することができる。 2. 国内外の在宅看護の実際について述べ、それぞれの国における課題について説明することができる。 3. 在宅療養者及び家族・看護者を含む支援者のQOLを高めるために必要とされるケアの方法について説明することができる。 4. 我が国における新たな在宅看護の展開について述べることができる。 					
キーワード	在宅療養者の保健・医療・福祉制度、国内外の在宅療養者、QOLの向上					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授業内容・授業方法			授業前後 の学習	担当
1、2	我が国における地域社会で療養生活を営んでいる現状と課題及びそれを支えている訪問診療・訪問看護・訪問ヘルパー等の現状と課題 ①	授業ガイダンス。我が国における訪問診療・訪問看護・訪問ヘルパー事業所等の実態 (講義)			到達目標に対する自己目標を作成し講義に臨む	鈴木
3、4	地域社会で療養生活を営んでいる様々な対象者の保健・福祉・医療制度の現状と課題 ②	我が国におけるライフサイクルごとの保健・福祉・医療制度の実態 (演習・GW)			事前に講義資料を読んでおく	鈴木
5、6	国内外の在宅看護の現状とそれぞれの国における課題 ①	在宅事例を用い国内外の実態とその課題(例:ALS等の指定難病) (講義)			事前に講義資料を読んでおく	鈴木
7、8	国内外の在宅看護の現状とそれぞれの国における課題 ②	在宅事例を用い国内外の実態とその課題(例:ALS等の指定難病) (演習・GW)			事前に講義資料を読んでおく	鈴木
9、10	在宅療養者及び家族・看護者を含む支援者のQOLを高めるために必要とされるケアの方法 ①	在宅療養者及び家族・看護者を含む支援者のQOLを高めるために必要とされるケアの方法 (講義)			事前に講義資料を読んでおく	鈴木
11、12	在宅療養者及び家族・看護者を含む支援者のQOLを高めるために必要とされるケアの方法 ②	在宅療養者及び家族・看護者を含む支援者のQOLを高めるために必要とされるケアの方法 (演習・GW)			事前に講義資料を読んでおく	鈴木
13、14	我が国における新たな在宅看護の展開 ①	我が国における新たな在宅看護の展開 (講義)			事前に講義資料を読んでおく	鈴木
15	我が国における新たな在宅看護の展開まとめ 到達目標の評価	我が国における新たな在宅看護の展開 (講義・演習・GW)			事前に到達目標の評価をしておく	鈴木

履修条件	特になし
教科書・参考図書等	中島孝（監）2016『ALS マニュアル決定版 part 2』日本プランニングセンター 川田明広（編）2013『第三号（特定の者対象）のための喀痰吸引等研修テキスト』 その他、担当講師が準備する資料
成績評価方法	授業態度（20%）、プレゼンテーション（20%）、グループワークへの参加度（20%）、課題提出（20%）、レポート（20%）から評価する

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	担当教員 職位・氏名
地域看護学特論Ⅱ (アセスメント・実践論)	M21006	2 (30)	選択	1	後期	教授 鈴木るり子
授業概要	地域や集団を単位とした地域ケアシステム構築に係る既存の概念・理論について理解を深める。また、地域診断を基に地域住民の個別の健康・生活課題を地域全体の健康・生活課題へと発展させ、社会資源の活用と開発、施策化について考察する。これらを通して地域ケアシステムについて探求する。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域ケアシステム構築に関する概念及び理論について理解できる。 2. 地域診断理論による健康・生活課題の抽出、地域ケアサービスの質の保証、施策化の方向性を理解できる。 3. 健康・生活課題課に活用できる社会資源と必要となる社会資源の開発、施策化の方向性を理解できる。 4. 健康・生活課題を解決するための地域ケアシステムの立案ができる。 					
キーワード	地域ケアシステム、地域診断、健康・生活課題の抽出、社会資源の開発、施策化の方向性					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授業内容・授業方法		授業前後 の学習	担当	
1、2	地域ケアシステム構築に関する概念及び理論	授業ガイダンス、地域ケアシステムの発展過程について (講義)		到達目標に対する自己目標を作成し講義に臨む。事前に講義資料を読んでおく	鈴木	
3、4	地域診断理論 (community as partner model, PRECEDE - PROCEED model) による健康・生活課題の抽出	参考事例を基に作成 (講義・演習)		事前に講義資料を読んでおく	鈴木	
5、6	健康・生活課題の抽出から地域ケアサービスの質の保証	参考事例を基に作成 (講義・演習)		事前に講義資料を読んでおく	鈴木	
7、8	地域ケアサービスの質の向上を図るための施策化の方向性	参考事例を基に作成 (講義・演習)		事前に講義資料を読んでおく	鈴木	
9、10	健康・生活課題に活用できる社会資源と必要となる社会資源の開発	参考事例を基に作成 (講義・演習)		事前に講義資料を読んでおく	鈴木	
11、12	社会資源の開発に必要とされる施策化の方向性	参考事例を基に作成 (講義・演習)		事前に講義資料を読んでおく	鈴木	
13、14	参考事例を基に課題を解決するための地域ケアシステムの立案	参考事例を基に課題解決するための地域ケアシステムのプロセスとプレゼンテーションの方法 (講義・演習・GW)		事前に講義資料を読んでおく	鈴木	

15	参考事例を基に課題を解決するための地域ケアシステムの提言 まとめ 到達目標の評価	参考事例を基に課題解決するための地域ケアシステムの提言について4枚のスライドでプレゼンテーションする まとめ 到達目標の評価 (演習・GW)	プレゼンテーションできるように事前に準備しておく 事前に到達目標の評価をしておく	鈴木
履修条件	特になし			
教科書・参考図書等	佐伯和子（編）,2014,『公衆衛生看護学テキスト第2巻公衆衛生看護技術』医歯薬出版（株） その他、担当講師が準備する資料			
成績評価方法	授業態度（20%）、プレゼンテーション（20%）、グループワークへの参加度（20%）、課題提出（20%）、レポート（20%）から評価する			

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	担当教員 職位・氏名
地域看護学演習 I	M21007	2 (30)	選択	1	前期	教授 鈴木るり子
授業概要	様々なライフサイクルにある療養者がもつ健康問題や環境に対してアセスメントする能力を養う。また、療養者や家族の強みを引き出すケアマネジメント能力と看護上生じる倫理的問題について検討・考察する能力を養う。これらの過程を通して研究課題の明確化を図る。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自己の研究課題について、在宅療養者の支援に関する看護研究論文をクリティークし、研究の意義・限界・課題を明確にし、発表することができる。 2. 自らの研究テーマに関連する先行研究についてレビューし発表できる。 3. 自らの研究テーマの意義および位置づけを明確にでき、適切な研究方法を選択できる。 4. 他の学生の発表内容を理解し、質問や討論ができる。 					
キーワード	論文講読、クリティーク、研究意義、研究課題、研究テーマ					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授業内容・授業方法		授業前後 の学習	担当	
1、2	乳幼児・学童児期の在宅療養者の健康問題・環境に対するアセスメント能力に関する研究論文のクリティーク	授業ガイダンス 乳幼児・学童児の在宅療養者の健康問題・環境に対するアセスメント能力に関連する研究論文の発表と討議 (講義・演習)		到達目標に対する自己目標を作成し講義に臨む	鈴木	
3、4	思春期の在宅療養者の健康問題・環境に対するアセスメント能力に関する研究論文のクリティーク	思春期の在宅療養者の健康問題・環境に対するアセスメント能力に関連する研究論文の発表と討議 (演習・GW)		論文講読 発表準備	鈴木	
5、6	青年期の在宅療養者の健康問題・環境に対するアセスメント能力に関する研究論文のクリティーク	青年期の在宅療養者の健康問題・環境に対するアセスメント能力に関連する研究論文の発表と討議 (演習・GW)		論文講読 発表準備	鈴木	
7、8	老年期の在宅療養者の健康問題・環境に対するアセスメント能力に関する研究論文のクリティーク	老年期の在宅療養者の健康問題・環境に対するアセスメント能力に関連する研究論文の発表と討議 (演習・GW)		論文講読 発表準備	鈴木	
9、10	療養者や家族の強みを引き出すケアマネジメント能力に関する研究論文のクリティーク①	療養者や家族の強みを引き出すケアマネジメント能力に関連する研究論文の発表と討議 (演習・GW)		論文講読 発表準備	鈴木	
11、12	療養者や家族の強みを引き出すケアマネジメント能力に関する研究論文のクリティーク②	療養者や家族の強みを引き出すケアマネジメント能力に関連する研究論文の発表と討議 (演習・GW)		論文講読 発表準備	鈴木	

13、14	国内外の在宅看護の現状と課題及び新たな在宅看護の展開に関する研究論文のクリティーク	国内外の在宅看護の現状と課題及び新たな在宅看護の展開に関連する研究論文の発表と討議 (演習・GW)	論文講読 発表準備	鈴木
15	在宅看護上生じる倫理的問題に関する研究論文のクリティーク まとめ 到達目標の評価	在宅看護上生じる倫理的問題に関連する研究論文の発表と討議 まとめ 到達目標の評価 (講義・演習・GW)	論文講読 発表準備 事前に到達 目標の評価 をしておく	鈴木
履修条件	地域看護学特論 I を履修していること			
教科書・参考図書等	牧本清子 山川みやえ,2020,『よくわかる看護研究論文のクリティーク 第2版』日本看護協会出版会 その他、担当教員が準備する資料			
成績評価方法	授業態度 (20%)、プレゼンテーション (20%)、グループワークへの参加度 (20%)、課題提出 (20%)、レポート (20%) から評価する			

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	担当教員 職位・氏名
地域看護学演習Ⅱ	M21008	2 (30)	選択	1	後期	教授 鈴木るり子
授業概要	自己の研究課題に焦点をあて、その研究の課題を解明するための理論的枠組みについて方法論の正当性や実現可能性について検討する。課題に即した研究デザイン、研究計画を採用する過程を通して自らが取り組むべき研究遂行能力を養う。					
到達目標	1. 自己の研究課題について、地域ケアシステムに関する看護研究論文をクリティークし、研究の意義・限界・課題を明確にし、発表することができる。 2. 自らの研究テーマの意義および位置づけを明確にでき、適切な研究方法を選択できる。 3. 他の学生の発表内容を理解し、質問や討論ができる。					
キーワード	文献検索、文献購読、文献要約、研究デザイン、研究計画					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授業内容・授業方法		授業前後 の学習	担当	
1、2	地域ケアシステムに関する研究論文のクリティーク	授業ガイダンス 地域ケアシステムに関連する研究論文の発表と討議 (講義・演習・GW)		到達目標に対する自己目標を作成し講義に臨む	鈴木	
3、4	地域ケアシステム構築に関する研究論文のクリティーク	地域ケアシステム構築に関連する研究論文の発表と討議 (演習・GW)		論文講読 発表準備	鈴木	
5、6	地域ケアシステム構築に関する地域診断・健康・生活課題の抽出に関する研究論文のクリティーク	地域ケアシステム構築に関する地域診断・健康・生活課題の抽出に関連する研究論文の発表と討議 (演習・GW)		論文講読 発表準備	鈴木	
7、8	地域ケアサービスの質の向上を図るための施策化の方向性に関する研究論文のクリティーク	地域ケアサービスの質の向上を図るための施策化の方向性に関連する研究論文の発表と討議 (演習・GW)		論文講読 発表準備	鈴木	
9、10	健康・生活課題に活用できる社会資源と必要となる社会資源の開発に関する研究論文のクリティーク	健康・生活課題に活用できる社会資源と必要となる社会資源の開発に関連する研究論文の発表と討議 (講義・演習・GW)		論文講読 発表準備	鈴木	
11、12	健康・生活課題を解決するための地域ケアシステムの構築に関する研究論文のクリティーク①	健康・生活課題を解決するための地域ケアシステムの構築に関連する研究論文の発表と討議① (演習・GW)		論文講読 発表準備	鈴木	
13、14	健康・生活課題を解決するための地域ケアシステムの構築に関する研究論文のクリティーク②	健康・生活課題を解決するための地域ケアシステムの構築に関連する研究論文の発表と討議② (演習・GW)		論文講読 発表準備	鈴木	

15	健康・生活課題を解決するための地域ケアシステムの構築に関する研究論文のクリティーク③ まとめ 到達目標の評価	健康・生活課題を解決するための地域ケアシステムの構築に関連する研究論文の発表と討議③ まとめ 到達目標の評価 (講義・演習・GW)	論文講読 発表準備 事前に到達 目標の評価 をしておく	鈴木
履修条件	地域看護学特論Ⅱを履修していること			
教科書・参考図書等	近藤尚己,2016,『介護予備活動のための地域診断データの活用と組織連携ガイド 地域包括ケアの推進に向けて』,株式会社 三響社 牧本清子 山川みやえ,2020,『よくわかる看護研究論文のクリティーク 第2版』日本看護協会出版会 その他、担当講師が準備する資料			
成績評価方法	授業態度 (20%)、プレゼンテーション (20%)、グループワークへの参加度 (20%)、課題提出 (20%)、レポート (20%) から評価する			

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	担当教員 職位・氏名
老年看護学特論 I (看護援助学特論)	M31001	2 (30)	選択	1	前期	教授 勝野とわ子
授業概要	高齢期にある人々の健康維持・増進、疾病予防について全人的に課題を把握し分析する。その為に高齢者ケアに応用可能な理論の理解を深め、実践における応用可能性を探究する。さらに、生活習慣病やストレス等に関連する健康問題に着目し、終末期を含めた QOL の維持向上を目指した看護介入方法とその評価方法を探究する。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者ケアに応用可能な理論について理解を深め説明できる。 2. 高齢者の健康を全人的にアセスメントする方法について理解する。 3. 生活習慣病やストレスと自己管理能力に焦点を当てて、看護介入方法について理解する。 4. 高齢者の健康を支援するための社会資源や保健医療福祉サービスのシステムの課題について理解し説明できる。 					
キーワード	理論、生活習慣病、システム、アセスメント					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授業内容・授業方法			授業前後 の学習	担当
1	オリエンテーション	(講義、ゼミ)			参考書、資料	勝野
2	高齢者の健康生活を支援する主要概念と諸理論	高齢者ケアにおける重要概念と理論の意義の理解。健康寿命、QOL, WHO の健康概念、エンパワメント理論などの理解 (講義、ゼミ)			参考書、資料	勝野
3	セルフケア理論と看護実践	セルフケア理論について理解を深めセルフケア理論を用いた看護実践について文献検討 (講義、ゼミ)			参考書、資料	勝野
4	QOL 理論と看護実践	QOL 理論について理解を深めセルフケア理論を用いた看護実践について文献検討 (講義、ゼミ)			参考書、資料	勝野
5	ストレス・コーピング理論と看護実践	ストレス・コーピング理論について理解を深めセルフケア理論を用いた看護実践について文献検討 (講義、ゼミ)			参考書、資料	勝野
6	スピリチュアリティと看護実践	スピリチュアリティ理論について理解を深めセルフケア理論を用いた看護実践について文献検討 (講義、ゼミ)			参考書、資料	勝野
7	Parse 看護理論と看護実践	Parse 看護理論について理解を深めセルフケア理論を用いた看護実践について文献検討 (講義、ゼミ)			参考書、資料	勝野

8	高齢者の健康問題の査定法	高齢者を対象としたヘルスアセスメントのポイントを理解 (講義、ゼミ)	参考書、資料	勝野
9	高齢者の健康問題と生活および環境	生活と環境が高齢者の健康問題に及ぼす影響を理解し介入方法について検討 (講義、ゼミ)	参考書、資料	勝野
10	問題解決のための諸制度と諸資源	高齢者の健康問題等に有効に介入するための制度と諸資源の具体的な理解 (講義、ゼミ)	参考書、資料	勝野
11	問題解決のための看護実践方法とシステム	高齢者の健康問題等の解決に有効な看護実践方法と保健医療福祉サービスシステムの理解 (講義、ゼミ)	参考書、資料	勝野
12	看護実践方法とシステムの改善と開発①	文献検討から看護実践方法とシステムの開発の検討 (講義、ゼミ)	参考書、資料	勝野
13	看護実践方法とシステムの改善と開発②	文献検討、実践例から看護実践方法とシステムの開発の検討 (講義、ゼミ)	参考書、資料	勝野
14	慢性疾患を持つ高齢者の自己管理能力を支援する看護	文献や実践例から糖尿病や心疾患を持つ高齢者の自己管理能力支援の重要性を理解するとともに新たな看護方法を検討 (講義、ゼミ)	参考書、資料	勝野
15	介護予防のための自己管理能力を支援する看護	文献や実践例から高齢者の健康寿命を支える自己管理能力を支援する新たな看護方法を検討 (講義、ゼミ)	参考書、資料	勝野
履修条件		なし		
教科書・参考図書等		1. Cotter, V.T, & Strumpf, N.E. Advanced practice nursing with older adults: Clinical Guidelines, McGraw Hill. 2. その他必要に応じて提示する。		
成績評価方法		課題レポート (80%) と授業への貢献度 (20%) を総合的に評価する。		

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	担当教員 職位・氏名
老年看護学特論Ⅱ (アセスメント・実践論)	M31002	2 (30)	選択	1	後期	教授 勝野とわ子
授業概要	認知症の病態生理、症状の特徴、診断および治療方法を最新の知見に基づき理解する。其のうえで、認知症による身体的・心理的・社会経済的影響をアセスメントし、認知症者およびその家族の健康課題や倫理的課題について分析し考察する。さらに、Dementia ケア理論について理解し、認知症者の生活や活動の在り方および療養環境の整備などから生活の質の向上を目指した看護方法の開発を探求する。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 認知症の種類、病態生理、症状の特徴、診断・治療方法を理解し説明できる。 2. 認知症者と家族介護者のアセスメントの指標を理解する。 3. Dementia ケア理論について理解し説明できる。 4. 認知症者と家族介護者の健康課題や倫理的課題を理解し、解決策を考えることができる。 					
キーワード	認知症、若年認知症、Dementia ケア理論、アセスメント、支援方法					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授業内容・授業方法			授業前後 の学習	担当
1	オリエンテーション	講義				勝野
2	認知症の病態生理、診断、治療、最新の研究動向	講義			参考書、資料	勝野
3	Dementia ケアの理論① Person-centered care について理解を深める	講義、ゼミ			参考書、資料	勝野
4	Dementia ケアの理論② Continuity 理論、エンパワメント理論など	講義、ゼミ			参考書、資料	勝野
5	Dementia ケアの理論③ ストレス刺激閾値漸減モデルなど	講義、ゼミ			参考書、資料	勝野
6	Dementia による身体的、心理的、社会・経済的影響 と看護実践	講義、ゼミ			参考書、資料	勝野
7	若年認知症の理解と対応① 若年認知症者の特徴とそれに応じたケア	講義、ゼミ			参考書、資料	勝野
8	若年認知症の理解と対応② 若年認知症家族介護者の特徴とそれに応じたケア	講義、ゼミ			参考書、資料	勝野
9	認知症者と家族を支援するための社会資源 保健福祉制度および効果的な支援活動のための資源の調整など	講義、ゼミ			参考書、資料	勝野
10	認知症者のアセスメント 認知機能評価法などの理解と実践演習	講義、演習			参考書、資料	勝野
11	認知症家族介護者のアセスメント 介護負担尺度、うつ尺度、QOL 尺度の理解と実践演習	講義、演習			参考書、資料	勝野
12	認知症者と家族への支援方法① 支援の実際について例示しより良い支援方法について討論する	講義、ゼミ			参考書、資料	勝野
13	認知症者と家族への支援方法② 学生が経験した支援について事例発表し討論する	講義、ゼミ			参考書、資料	勝野

14	Dementia ケアにおける倫理的課題と看護実践 認知症者と介護家族の人権とその支援方法について 討論する	講義、ゼミ	参考書、資料	勝野
15	Dementia に関する最新の研究動向 認知症医療、ケアにおける最新の研究論文を読み新 たなケアを探究する姿勢を理解する	講義、ゼミ	参考書、資料	勝野
履修条件	なし			
教科書・参考図書等	1. 鈴木みずえ、酒井郁子：パーソン・センタード・ケアでひらく認知症看護の扉。南江堂 2. 中島希恵子監修・編集：認知症の人びとの看護。医歯薬出版 3. その他必要に応じて提示する。			
成績評価方法	課題レポート（70%）、講義、ゼミ、演習への貢献度（30%）による総合評価			

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選 択 の別	学年	開講 時期	科目責任者
老年看護学演習 I	M31003	2 (30)	選択	1	前期	教授 勝野とわ子
担当教員 職位・氏名	教授 勝野とわ子 准教授 木内千晶					
授業概要	各自が興味を持っているテーマについて文献検討を行い、関心領域の研究の課題を明らかにする。さらに最新の研究知見から研究方法について理解を深める。それらを統合して研究計画書を作成する能力を養う。					
到達目標	1. 興味のある分野の研究論文を検索することが出来る。 2. クリテイクし、研究課題を明確にすることができる。 3. クリテイクから研究課題解決に適切な方法を考えることが出来る。					
キーワード	文献検索、クリテイク、研究課題、研究計画書					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授業内容・授業方法			授業前後 の学習	担当
1	オリエンテーション	(ゼミ)			参考書、資料	共同
2	文献検索の方法	文献検索データベースの使い方 と文献収集 (講義)			参考書、資料	木内
3	文献クリテイクの方法①	興味のある分野の量的研究のク リテイク方法を理解 (講義)			参考書、資料	勝野
4	文献クリテイクの方法②	興味のある分野の質的研究のク リテイク方法を理解 (演習)			参考書、資料	勝野
5	文献検討①	学生の関心領域の文献を検討 (ゼミ)			参考書、資料	共同
6	文献検討②	学生の関心領域の文献を検討 (ゼミ)			参考書、資料	共同
7	文献検討③	学生の関心領域の文献を検討 (ゼミ)			参考書、資料	共同
8	文献検討④	学生の関心領域の文献を統合 (ゼミ)			参考書、資料	共同
9	文献検討⑤	学生の関心領域の文献を統合 (ゼミ)			参考書、資料	共同
10	文献検討⑥	学生の関心領域の文献を統合 (ゼミ)			参考書、資料	共同
11	研究計画書の書き方	研究の背景、研究方法、倫理的配 慮など研究計画書の内容につい て理解 (講義)			参考書、資料	木内
12	研究計画書の検討①	学生個々の研究計画書の作成と 討議 (ゼミ)			参考書、資料	共同
13	研究計画書の検討②	学生個々の研究計画書の作成と 討議 (ゼミ)			参考書、資料	共同

14	研究計画書の検討③	研究計画書の修正と討議 (ゼミ)	参考書、資料	共同
15	研究計画書の検討④	研究計画書の発表と討議 (ゼミ)	参考書、資料	共同
履修条件		老年看護学特論 I を履修していること		
教科書・参考図書等		1. Brink, P.J. & Wood, M.J. 看護研究計画書作成の基本ステップ。日本看護協会出版会 2. その他必要に応じて参考文献や資料を提示する。		
成績評価方法		課題レポート (80%) および授業への貢献度 (20%) を総合して評価する。		

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	科目責任者
老年看護学演習Ⅱ	MB1004	2 (30)	選択	1	後期	教授 勝野とわ子
担当教員 職位・氏名	教授 勝野とわ子 准教授 木内千晶					
授業概要	認知症に関する（または、各自が興味を持っている）テーマに基づき、医療機関または高齢者施設などで演習をおこない、パイロットスタディを実施する。収集したデータ分析の演習を通して、対象としている現象の理解を深め、研究計画書および研究倫理申請書を作成する能力を養う。					
到達目標	1. テーマに基づいたパイロットスタディを実施できる。 2. データ分析について理解を深め、説明できる。 3. 研究計画書を作成できる。 4. 研究倫理審査申請書について理解を深める。					
キーワード	パイロットスタディ、研究計画書、データ分析					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授業内容・授業方法			授業前後 の学習	担当
1	オリエンテーション	(ゼミ)			教科書、資料	共同
2	関心領域の文献クリティーク①	学生の関心領域のクリティークと討議 (ゼミ)			教科書、資料	共同
3	関心領域の文献クリティーク②	学生の関心領域のクリティークと討議 (ゼミ)			教科書、資料	共同
4	パイロットスタディ研究計画書①	学生の学位論文研究のパイロットスタディ研究計画書の作成と検討 (ゼミ)			教科書、資料	共同
5	パイロットスタディ研究計画書②	パイロットスタディ研究計画書の修正と検討 (ゼミ)			教科書、資料	共同
6	パイロットスタディ①	フィールドにおけるパイロットスタディの実施 (演習)			教科書、資料	共同
7	パイロットスタディ②	フィールドにおけるパイロットスタディの実施 (演習)			教科書、資料	共同
8	パイロットスタディ③	フィールドにおけるパイロットスタディの実施 (演習)			教科書、資料	共同
9	データ分析①	収集したデータの分析と討議 (演習)			教科書、資料	共同
10	データ分析②	収集したデータ分析と討議 (演習)			教科書、資料	共同
11	データ分析③	データ分析結果の発表と討議 (演習)			教科書、資料	共同
12	研究計画書作成①	パイロットスタディの結果をもとに研究計画書を作成する (ゼミ)			教科書、資料	共同
13	研究計画書作成②	作成した研究計画書の発表と討議および修正 (ゼミ)			教科書、資料	共同

14	研究倫理審査申請書作成①	研究倫理審査申請書の作成と 討議（ゼミ）	教科書、資料	共同
15	研究倫理審査申請書作成②	研究倫理審査申請書の発表と 討議および修正（ゼミ）	教科書、資料	共同
履修条件		老年看護学特論Ⅱを履修していること		
教科書・参考図書等		1. Brink, P.J. & Wood, M.J. 小玉香津子・輪湖史子訳、看護研究計画書作成の基本ステップ。 日本看護協会出版社 2. Krippendorff, K. Content analysis: An introduction to its methodology. SAGE. 3. その他の資料は必要に応じて提示する。		
成績評価方法		課題レポート（50%）、研究計画書（30%）、授業への貢献度（20%）を総合的に評価する。		

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	担当教員 職位・氏名
母性看護学特論 I (看護援助学特論)	M31005	2 (30)	選択	1	前期	教授 江守陽子
授業概要	思春期から成熟期、更年期、老年期へと変化する女性の心理的、身体的、社会的な特徴について、国内外の文献や事例をもとに、整理し考察する。さらに、現代社会に生きる女性と家族の健康課題、疾病の予防、ライフステージ各段階のヘルスケアについて、それらを解決・評価する方法や理論を学修する。					
到達目標	1. 女性の健康の概念が理解できる。 2. 女性の健康課題を説明することができる 3. 女性の健康課題についてアセスメントをし、支援方法を立案することができる。 4. 女性の健康を支援するための看護の役割を理解できる。					
キーワード	リプロダクティブヘルス、高度生殖医療、ドメスティック・バイオレンス、女性医療					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授業内容・授業方法		授業前後 の学習	担当	
1、 2	女性の健康課題：ライフステージからとらえる健康	乳・幼児期、思春期、成人期、更年期、老年期、各期の女性の性周期に関する健康課題 (講義及び討議)		自己学習	江守	
3、4	女性の健康課題：リプロダクティブヘルスと健康	成人期(成熟期)の生殖に関連する健康課題 (講義及び討議)		自己学習	江守	
5、6	女性の健康課題：月経と健康	月経異常、月経困難症、月経前症候群、子宮内膜症等のアセスメント、ケアの実際 (講義及び討議)		自己学習	江守	
7、8	女性の健康課題：高度生殖医療と健康	不妊、不妊治療、不妊治療後の妊娠・出産・育児支援 (講義及び討議)		自己学習	江守	
9、 10	女性の健康課題：思春期の女性の精神の健康	ボディ・イメージ、うつ、引きこもり、思春期食思不振症、性自認、自尊感情、社会的逸脱行動 (講義及び討議)		自己学習	江守	
11、 12	女性の健康課題：更年期・老年期の女性の精神の健康	女性ホルモンと卵巣機能、自律神経失調症状、精神神経症状、空の巣症候群、ホットフラッシュ、発汗、不眠、不安、抑うつ、介護ストレス、親族の死、人生100年時代を見越した女性の健康支援 (講義及び討議)		自己学習	江守	
13、 14	女性の健康課題：ドメスティック・バイオレンス被害女性の健康課題	定義と実態、スクリーニング、被害者支援、加害者支援、フォレンジック・ナーシング (講義及び討議)		自己学習	江守	

15	女性の健康課題：女性医療の視点から見た健康課題	性差医療、生涯を通じた女性の包括的健康支援、女性の地位、偏見、性差別、女性蔑視、性の売買、性に関する迷信・悪習慣 (講義及び討議)	自己学習	江守
履修条件		特になし		
教科書・参考図書等		その都度紹介する		
成績評価方法		授業態度 (20%)、プレゼンテーション (20%)、グループワークへの参加度 (20%)、課題提出物 (20%)、レポート (20%) から評価する		

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	担当教員 職位・氏名
母性看護学特論Ⅱ (アセスメント・実践論)	M31006	2 (30)	選択	1	後期	教授 江守陽子
授業概要	<p>家族や社会における母子の心理的、身体的健康課題や疾病の予防、健康の保持・増進のための看護職の活動について文献や事例を通して分析し、アセスメントするための能力を養う。</p> <p>さらに、家族、社会集団、および国家における母子保健の位置付け、取り組み、保健活動および我が国の母子保健法等の法律に裏付けられた国、都道府県、市町村レベルの支援や保健サービスの特徴について学修を進める。また、母子保健活動の変遷、地域（国外も含む）による差異について考察する。</p>					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 文献検索システムを用い、文献探索ができる 2. 論文を講読し、研究内容を要約して口頭で紹介することができる 3. 講読論文解説を聞いて理解し、疑問点や当該研究の意義について討論することができる 					
キーワード	文献検索、文献講読、文献要約					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授業内容・授業方法		授業前後 の学習	担当	
1、 2	女性および家族の支援と看護 包括的文献レビュー	授業ガイダンス、文献検索法、文献紹介、女性および家族の支援と看護に関する文献レビュー (講義と演習)		関連文献の講読、発表準備	江守	
3、 4	妊娠期の女性の健康課題と看護 包括的文献レビュー	妊娠期の女性に関する文献レビュー (プレゼンテーションと討議)		関連文献の講読、発表準備	江守	
5、 6	胎児・新生児の健康問題と看護 包括的文献レビュー	胎児・新生児に関する文献レビュー (プレゼンテーションと討議)		関連文献の講読、発表準備	江守	
7、 8	母子関係および母性性の発達過程の支援と看護 包括的文献レビュー	母子関係および母性性の発達過程に関する文献レビュー (プレゼンテーションと討議)		関連文献の講読、発表準備	江守	
9、 10	出産体験と看護者の役割 包括的文献レビュー	出産体験に関する文献レビュー (プレゼンテーションと討議)		関連文献の講読、発表準備	江守	
11、 12	母子の健康課題と育児支援 包括的文献レビュー	母子の健康課題と育児支援に関する文献レビュー (プレゼンテーションと討議)		関連文献の講読、発表準備	江守	
13、 14	祖父母を含めた家族・サポートシステムの障害と看護 包括的文献レビュー	祖父母を含めた家族・サポートシステムに関する文献レビュー (プレゼンテーションと討議)		関連文献の講読、発表準備	江守	
15	まとめ	課題レポート作成 (講義と演習)		文献整理	江守	
履修条件		特になし				
教科書・参考図書等		その都度紹介する				

成績評価方法	授業態度 (20%)、プレゼンテーション (20%)、グループワークへの参加度 (20%)、課題提出物 (20%)、レポート (20%) から評価する
--------	---

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	科目責任者
母性看護学演習 I	M31007	2 (30)	選択	1	前期	教授 江守陽子
担当教員 職位・氏名	教授 江守陽子 助教 大谷良子、佐藤 恵					
授業概要	思春期から成熟期、更年期、老年期へと変化する健康リスクの高い女性あるいは健康問題を抱えた女性について、国内外の文献や事例を分析することにより、より高度な看護活動の方策について考察を深める。また、科学的思考を実践に生かすために、研究課題や研究方法、看護実践の質を評価する意義と方法等について学修する。それによって、母性看護学領域の看護実践研究の基礎的能力を養う。					
到達目標	1. 思春期から更年期、老年期の健康支援に関する看護研究論文をクリティークし、研究の意義・限界・課題を明確にし、発表することができる 2. 自らの研究テーマに関連する先行研究についてレビューし発表できる 3. 自らの研究テーマの意義および位置づけを明確にでき、適切な研究方法を選択できる 4. 他の学生の発表内容を理解し、質問や討論ができる					
キーワード	論文講読、クリティーク、研究意義、研究課題、研究テーマ					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授業内容・授業方法		授業前後 の学習	担当	
1、 2	女性の健康課題：思春期の女性の健康 研究論文のクリティーク①	思春期の女性の健康に関連する研究論文の発表と討議		論文講読 発表準備	共同	
3、 4	女性の健康課題：思春期の女性の健康 研究論文のクリティーク②	思春期の女性の健康に関連する研究論文の発表と討議		論文講読 発表準備	共同	
5、 6	女性の健康課題：更年期・老年期の健康 研究論文のクリティーク①	更年期・老年期の女性の健康に関連する研究論文の発表と討議		論文講読 発表準備	共同	
7、 8	女性の健康課題：更年期・老年期の健康 研究論文のクリティーク②	更年期・老年期の女性の健康に関連する研究論文の発表と討議		論文講読 発表準備	共同	
9、 10	女性の健康課題：リプロダクティブヘルスに関する健康障害 研究論文のクリティーク①	リプロダクティブヘルスに関連する研究論文の発表と討議		論文講読 発表準備	共同	
11、 12	女性の健康課題：リプロダクティブヘルスに関する健康障害 研究論文のクリティーク②	リプロダクティブヘルスに関連する研究論文の発表と討議		論文講読 発表準備	共同	
13、 14	女性の健康課題：我が国の母子保健施策 研究論文のクリティーク①	我が国の母子保健施策に関連する研究論文の発表と討議		論文講読 発表準備	共同	
15	女性の健康課題：我が国の母子保健施策 研究論文のクリティーク②	我が国の母子保健施策に関連する研究論文の発表と討議		論文講読 発表準備	共同	
履修条件	母性看護学特論 I を履修していること					
教科書・参考図書等	随時紹介する					
成績評価方法	授業の到達目標の達成状況 (40%)、授業内での発表内容 (30%)・参加状況 (30%) によって判断する					

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	担当教員 職位・氏名
母性看護学演習Ⅱ	M31008	2 (30)	選択	1	後期	教授 江守陽子
担当教員 職位・氏名	教授 江守陽子 助教 大谷良子、佐藤 恵					
授業概要	周産期および女性の生涯を通じて、実践科学としての科学的根拠に基づいたケアを提供する方法を学修する。さらに、関連領域の最新の研究内容および看護実践等の分析、批判的評価を通して、自らの研究テーマを導き出し、課題に則した研究デザイン、研究計画を検討することによって、自らが取り組むべき研究遂行能力を養う。					
到達目標	1. 関心のある分野に関する文献を系統的に検索し、客観的なクリティークができる 2. 自らが取り組むべき研究課題を明らかにすることができる 3. 自らの研究課題に関する基本概念を整理し、発表することができる 4. 取り組もうとする研究の意義を発表することができる 5. 研究課題に則した研究デザイン、研究計画を検討することができる					
キーワード	リサーチクエスチョン、研究デザイン、研究倫理、研究計画書					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授業内容・授業方法		授業前後 の学習	担当	
1、 2	妊娠期の女性の健康課題と看護 研究論文のクリティーク①	妊娠期の女性の健康に関連する 研究論文の発表と討議		論文講読 発表準備	共同	
3、 4	妊娠期の女性の健康課題と看護 研究論文のクリティーク②	妊娠期の女性の健康に関連する 研究テーマの可能性と研究計画 試案 演習		論文講読 発表準備	共同	
5、 6	胎児・新生児の健康問題と看護 研究論文のクリティーク①	胎児・新生児の健康に関連する 研究論文の発表と討議		論文講読 発表準備	共同	
7、 8	胎児・新生児の健康問題と看護 研究論文のクリティーク②	胎児・新生児の健康に関連する 研究テーマの可能性と研究計画 試案 演習		論文講読 発表準備	共同	
9、 10	出産体験と看護者の役割 研究論文のクリティーク①	出産体験に関連する研究論文の 発表と討議		論文講読 発表準備	共同	
11、 12	出産体験と看護者の役割 研究論文のクリティーク②	出産体験に関連する研究テーマ の可能性と研究計画試案 演習		論文講読 発表準備	共同	
13、 14	家族・サポートシステムに対する支援 研究論文のクリティーク①	家族・サポートシステムに関連 する研究論文の発表と討議		論文講読 発表準備	共同	
15	家族・サポートシステムに対する支援 研究論文のクリティーク②	家族・サポートシステムに関連 する研究テーマの可能性と研究 計画試案 演習		論文講読 発表準備	共同	
履修条件	母性看護学特論Ⅱを履修していること					
教科書・参考図書等	随時紹介する					
成績評価方法	授業の到達目標の達成状況 (40%)、授業内での発表内容 (30%)・参加状況 (30%) によって判断する					

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	担当教員 職位・氏名
小児看護学特論 I (看護援助学特論)	M31009	2 (30)	選択	1	前期	教授 濱中喜代
授業概要	乳児期から思春期までの発達理論に基づいた対象の理解のうえで、心理的、身体的、社会的な特徴とその支援方法について、国内外の文献や事例を下に、整理し考察する。さらに、現代社会に生きる小児とその家族の健康課題、疾病の予防、ライフステージ各段階のヘルスケアについて、それらを解決・評価する方法や理論を学修する。					
到達目標	1. 小児の対象理解につながる主要な発達理論について説明できる。 2. 小児の心理的・身体的・社会的特徴とその評価および看護について説明できる。 3. 小児と家族を取り巻く社会と健康課題・ヘルスプロモーション・疾病予防について説明できる。 4. 小児の権利擁護について自らの考えを説明できる。					
キーワード	発達理論、心理的・身体的・社会的特徴、健康課題、インフォームドアセント・権利擁護					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授業内容・授業方法		授業前後 の学習	担当	
1	オリ&小児看護学の対象・目標・アプローチの仕方	講義・履修生の認識・関心の確認		問題意識の 確認	濱中	
2	対象理解：発達理論；エリクソン（自我発達理論）	エリクソン（自我発達理論）に関する文献学修と発表		文献検索と 発表準備	濱中	
3	対象理解：発達理論；ピアジェ（認知発達理論）	ピアジェ（認知発達理論）に関する文献学修と発表		同上	濱中	
4	対象理解：発達理論；コールバーグ（道徳性発達理論）	コールバーグ（道徳性発達理論）に関する文献学修と発表		同上	濱中	
5	対象理解：発達理論；マラー（分離－固体化理論）	マラー（分離－固体化理論）に関する文献学修と発表		同上	濱中	
6	オレムのセルフケア理論・看護理論	オレムのセルフケア理論・看護理論に関する文献学修と発表		同上	濱中	
7	心理的・身体的・社会的特徴の評価と看護：乳児期	乳児期の関連文献の精読と討議		関連文献の 学修・レポート作成	濱中	
8	心理的・身体的・社会的特徴の評価と看護：幼児期	幼児期の関連文献の精読と討議		同上	濱中	
9	心理的・身体的・社会的特徴の評価と看護：学童期・思春期	学童期・思春期の関連文献の精読と討議		同上	濱中	
10	小児と家族を取り巻く社会と健康課題	関連論文・研究の精読と討議		同上	濱中	
11	小児と家族を取り巻く社会とヘルスプロモーション	関連論文・研究の精読と討議		同上	濱中	
12	小児と家族を取り巻く社会と疾病予防	関連論文・研究の精読と討議		同上	濱中	
13	小児関連の制度・政策と社会資源	関連論文・研究の精読と討議		同上	濱中	
14	子どもの権利擁護とインフォームドコンセント・アセント	子どもの権利擁護に関する講義および討議		事後のレポート課題	濱中	
15	まとめ	全体に関する質疑応答		まとめのレポート作成	濱中	
履修条件		特になし				

教科書・参考図書等	テキストの指定はしない。参考図書・文献は随時紹介する
成績評価方法	到達目標の達成状況 30%、演習内の参加状況 30%、レポート内容 40%で総合的に評価する

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・ 選択の 別	学年	開講 時期	担当教員 職位・氏名
小児看護学特論Ⅱ (アセスメント・実践論)	M31010	2 (30)	選択	1	後期	教授 濱中喜代
授業概要	小児や家族を取り巻く社会環境・状況を踏まえ、心理的・身体的健康課題や疾病の予防、健康の保持・増進のための看護活動について文献や事例を通して分析し、アセスメントするための能力を養う。また小児と家族とのコミュニケーションスキルおよび多(他)職種連携と協働について学修を進める。さらにヘルスプロモーションに向けての健康教育について考察する。					
到達目標	①小児や家族を取り巻く社会環境・状況と看護援助について、子育て支援・虐待予防・災害看護の視点で説明することができる。 ②心理的・身体的健康課題や疾病の予防、健康の保持・増進のための看護活動について分析することができる。 ③小児と家族とのコミュニケーションスキルおよび多(他)職種連携と協働について説明することができる。 ④ヘルスプロモーションに向けての健康教育について考察を深めることができる。					
キーワード	社会環境・状況、コミュニケーションスキル、心理的・身体的健康課題、健康教育					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授業内容・授業方法		授業前後 の学習	担当	
1	オリエンテーション&小児看護学の援助の基本	オリ・講義		関心領域の 整理	濱中	
2	小児や家族を取り巻く社会環境・状況と看護援助(子育て支援):文献クリティーク	関連文献の精読と討議		資料の学修	濱中	
3	小児や家族を取り巻く社会環境・状況と看護援助(虐待予防):文献クリティーク	関連文献の精読と討議		同上	濱中	
4	小児や家族を取り巻く社会環境・状況と看護援助(災害支援):文献クリティーク	関連文献の精読と討議		同上	濱中	
5	心理的・身体的健康課題と看護援助(プレパレーション)	関連文献の精読と討議		同上	濱中	
6	心理的・身体的健康課題と看護援助(症状緩和)	関連文献の精読と討議		同上	濱中	
7	心理的・身体的健康課題と看護援助(エンドオブライフケア)	関連文献の精読と討議		同上	濱中	
8	小児とその家族とのコミュニケーションスキル:理論編	関連文献の精読と討議		同上	濱中	
9	小児とその家族とのコミュニケーションスキル:実践編	関連文献の精読と討議		同上	濱中	
10	多(他)職種連携と協働:特別支援教育①	ゲストスピーカーによる講義・討議		同上	濱中	
11	多(他)職種連携と協働:特別支援教育②	関連文献の精読と討議		同上	濱中	
12	小児看護における教育機能・相談機能①	関連文献の精読		同上	濱中	
13	小児看護における教育機能・相談機能②	関連文献の精読と討議		同上	濱中	
14	ヘルスプロモーションに向けての健康教育①	関連文献の精読		同上	濱中	
15	ヘルスプロモーションに向けての健康教育②	関連文献の精読と討議		同上	濱中	
履修条件		特になし				

教科書・参考図書等	テキストの指定はしない。参考図書・文献は随時紹介する
成績評価方法	到達目標の達成状況 30%、演習内の参加状況 30%、レポート内容 40%で総合的に評価する

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選 択 の別	学年	開講 時期	科目責任者
小児看護学演習 I	M31011	2 (30)	選択	1	前期	教授 濱中喜代
担当教員 職位・氏名	教授 濱中喜代 講師 下野純平					
授業概要	新生児期から思春期までの健康リスクの高い小児あるいは健康問題を抱えた小児について、国内外の文献や事例分析およびフィールドワークを通して、より高度な看護活動の方策について考察を深める。また、科学的思考を実践に生かすために、研究課題や研究方法、看護実践の質を評価する意義と方法等について学修する。それによって、小児看護学領域の看護実践研究の基礎的能力を養う。					
到達目標	5. 新生児期～思春期までの小児の援助理論と実践について関連文献をクリティークし、研究の意義や課題について発表することができる。 6. 関連文献のクリティークをとおして研究課題や研究方法、看護実践の質を評価する意義と方法について理解できる。 7. より高度な看護活動の方策について関連研究にあたり、考察を深めることができる。 8. 健康問題を抱えた小児への方策の1つであるフィールドワークをとおして、より高度な看護活動の方策について、考察を深めることができる。 9. 小児と家族の最善の利益にかなう看護について、自らの考えを説明できる。					
キーワード	小児の援助理論と実践、看護実践の質、看護活動の方策、フィールドワーク、最善の利益					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授 業 内 容 ・ 授 業 方 法			授 業 前 後 の 学 習	担 当
1	オリエンテーション	講義・履修生の認識・関心の確認			問題意識の 確認	共同
2	小児看護学に関する援助理論と実践の検討: 新生児期 (文献クリティーク)	新生児期の援助に関する文献学修と発表と討議			論文購読と 発表準備	下野
3	小児看護学に関する援助理論と実践の検討: 乳児期 (文献クリティーク)	乳児期の援助に関する文献学修と発表と討議			同上	下野
4	小児看護学に関する援助理論と実践の検討: 幼児前期 (文献クリティーク)	幼児前期の援助に関する文献学修と発表と討議			同上	下野
5	小児看護学に関する援助理論と実践の検討: 幼児後期期 (文献クリティーク)	幼児後期期の援助に関する文献学修と発表と討議			同上	濱中
6	小児看護学に関する援助理論と実践の検討: 学童期 (文献クリティーク)	学童期の援助に関する文献学修と発表と討議			同上	濱中
7	小児看護学に関する援助理論と実践の検討: 思春期 (文献クリティーク)	思春期の援助に関する文献学修と発表と討議			同上	濱中
8	より高度な看護活動の方策についての考察: 事例検討①	関連文献の精読と討議			論文購読	下野
9	より高度な看護活動の方策についての考察: 事例検討②	関連文献の精読と討議			同上	下野
10	より高度な看護活動の方策の考察: フィールドワーク (難病のこどもキャンプ参加)	難病のこどもキャンプ参加			事前準備学 習	濱中
11	より高度な看護活動の方策の考察: フィールドワーク (難病のこどもキャンプ参加)	難病のこどもキャンプ参加			同上	濱中

12	より高度な看護活動の方策の考察:フィールドワーク(難病のこどもキャンプ参加)	難病のこどもキャンプ参加	事後のレポート作成	濱中
13	小児と家族の最善の利益にかなう看護:文献クリティーク・討議①	関連論文・研究の精読と討議	論文購読	共同
14	小児と家族の最善の利益にかなう看護:文献クリティーク・討議②	関連論文・研究の精読と討議	論文購読	共同
15	まとめ	全体に関する質疑応答	まとめのレポート作成	共同
履修条件		小児看護学特論 I を履修していること		
教科書・参考図書等		テキストの指定はしない。参考図書・文献は随時紹介する		
成績評価方法		到達目標の達成状況 30%、演習内の参加状況 30%、レポート内容 40%で総合的に評価する		

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選 択の別	学年	開講 時期	科目責任者
小児看護学演習Ⅱ	M31012	2 (30)	選択	1	後期	教授 濱中喜代
担当教員 職位・氏名	教授 濱中喜代 講師 下野純平					
授業概要	小児とその家族への援助として、実践科学としての科学的根拠に基づいたケアを提供する方法を学修する。さらに、関連領域の最新の研究内容および看護実践等の分析、批判的評価を通して、自らの研究テーマを導き出し、課題に則した研究デザイン、研究計画を検討することによって、自らが取り組むべき研究遂行能力を養う。					
到達目標	1. 小児看護学における研究の動向および課題について説明することができる。 2. 関心領域の最新の文献を系統的に検索し、クリティークできる 3. 自ら取り組むべき研究課題を明らかにし、その意義を説明することができる。 4. 小児看護学における研究倫理を説明することができる。 5. 自らの研究課題に則した研究デザイン、研究計画の試案を作成することができる。					
キーワード	研究課題、研究デザイン、研究倫理、研究計画書					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授業内容・授業方法		授業前後 の学習	担当	
1	オリエンテーション&関心領域の言語化	オリ・履修生の関心領域の確認		関心領域の 整理	共同	
2	小児看護学に関する研究の動向と課題①	講義・文献学修と発表と討議		論文購読と 発表準備	共同	
3	小児看護学に関する研究の動向と課題②	講義・文献学修と発表と討議		同上	共同	
4	研究課題の明確化に向けた国内外の文献レビュー①	文献学修と発表と討議		同上	共同	
5	研究課題の明確化に向けた国内外の文献レビュー②	文献学修と発表と討議		同上	共同	
6	研究課題の明確化に向けた国内外の文献レビュー③	文献学修と発表と討議		同上	共同	
7	小児看護関連の最新の研究内容の分析、クリティーク①	関連文献の精読と討議		論文購読	共同	
8	小児看護関連の最新の研究内容の分析、クリティーク②	関連文献の精読と討議		同上	共同	
9	小児看護関連の最新の研究内容の分析、クリティーク③	関連文献の精読と討議		同上	共同	
10	小児看護関連の看護実践の分析・評価（事例検討）	看護経験の振り返り・分析		事前レポー ト作成	濱中	
11	小児看護関連の看護実践の分析・評価（文献クリティーク）①	関連文献の精読と討議		論文購読	濱中	
12	小児看護関連の看護実践の分析・評価（文献クリティーク）②	関連文献の精読と討議		同上	濱中	
13	小児看護学領域の研究倫理	講義と討議			濱中	
14	自らの研究テーマの導き出し&研究計画（案）の作成①	研究計画の試案作成		試案準備	濱中	
15	自らの研究テーマの導き出し&研究計画（案）の作成②	研究計画の試案作成		試案準備	濱中	

履修条件	小児看護学特論Ⅱを履修していること
教科書・参考図書等	テキストの指定はしない。参考図書・文献は随時紹介する
成績評価方法	到達目標の達成状況 30%、演習内の参加状況 30%、レポート内容 40%で総合的に評価する

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	担当教員 職位・氏名
精神看護学特論 I (看護援助学特論)	M31013	2 (30)	選択	1	前期	教授 岡田 実
授業概要	精神看護学の成り立ちと発展を理解するために、精神疾患と精神医療の歴史を世界的な動きを背景に日本が辿った歴史的変遷を学修しながら、精神障害者にも対応した地域包括ケアシステムの構築という現在の精神医療政策に至るプロセスを学修する。					
到達目標	①世界と日本における精神医療を比較し考察する。 ②日本におけるメンタルヘルスの置かれている状況を理解できる。 ③精神医療を地域包括ケアに適合させる精神医療政策の概要を理解できる。 ④自身の置かれているフィールドが抱える課題と自身の役割を明確にできる。					
キーワード	精神看護学の成立、精神医療の歴史的変遷 (国内外)、OECD 諸国間の精神医療比較、地域包括ケアと精神医医療、地域移行と定着、アウトリーチ型精神医療の課題					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授業内容・授業方法			授業前後 の学習	担当
1	精神看護学の成立	(講義・演習・GW)			問題提起とディスカッション	岡田
2	精神病の概念と治療に関する歴史的変遷 ①	近代以前 (講義・演習・GW)			同上	岡田
3	精神病の概念と治療に関する歴史的変遷 ②	近代以降 (講義・演習・GW)			同上	岡田
4	メンタルヘルスの概念と歴史的変遷 ①	近代 (講義・演習・GW)			同上	岡田
5	メンタルヘルスの概念と歴史的変遷 ②	現代 (講義・演習・GW)			同上	岡田
6	精神医療における治療の概念と法制度の歴史	精神病理学の変遷 (講義・演習・GW)			同上	岡田
7	日本における精神医療保健福祉制度 ①	精神衛生法まで (講義・演習・GW)			同上	岡田
8	日本における精神医療保健福祉制度 ②	宇都宮病院事件 (講義・演習・GW)			同上	岡田
9	日本における精神医療保健福祉制度 ③	精神保健福祉法まで (講義・演習・GW)			同上	岡田
10	OECD 諸国の精神医療状況と日本の比較	最近のデータを調査する (講義・演習・GW)			同上	岡田
11	OECD 諸国における精神保健医療事情 ①	ヨーロッパ (講義・演習・GW)			同上	岡田
12	OECD 諸国における精神保健医療事情 ②	アメリカ, カナダ (講義・演習・GW)			同上	岡田
13	精神障害者に対応する地域包括ケア	政策概要 (講義・演習・GW)			同上	岡田
14	地域移行と定着を推進する現在の精神医療	問題と課題 (講義・演習・GW)			まとめ	岡田
15	病院精神医療から地域精神医療への転換	アウトリーチ型の問題と課題 (講義・演習・GW)			同上	岡田
履修条件	特になし					

教科書・参考図書等	<ul style="list-style-type: none"> ・松本雅彦著：精神病理学とはなんだろうか，星和書店 ・高木俊介監修：精神障がい者地域包括ケアのすすめ—ACT - K の挑戦（実践編），批評社 ・浅野弘毅著：精神医療論争史，批評社 ・酒井明夫著：こころの科学の誕生，日本評論社 ・高木俊介著：精神医療の光と影，日本評論社 ・同上：こころの医療宅配便—精神科在宅ケア事始，文藝春秋 ・同上：ACT—K の挑戦—ACT がひらく精神医療・福祉の未来 ・立岩真也著：造反有理—精神医療現代史へ，青土社
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・問題提起時の文献検討（20％）とディスカッション（20％）、参加姿勢（20％）を評価します。 ・自身の看護実践課題に関するレポート作成（40％）を評価します。 ・インターネットによるオンライン・ミーティングを使った遠隔授業への参加を認めます。

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	担当教員 職位・氏名
精神看護学特論Ⅱ (アセスメント・実践論)	M31014	2 (30)	選択	1	後期	教授 岡田 実
授業概要	精神疾患に対する多職種アプローチを可能にする各種の介入モデル（生物学的モデル・精神力動モデル・認知行動モデル・社会モデル）を学修する。関連して、精神医療保健福祉の領域において、各種の事例が地域への移行と定着を遂げることに効果のある多職種協働によるチームアプローチを可能にする理論と実践を学修する。					
到達目標	①症例の多様な分析と解釈を可能にする各種の視点があることを理解する。 ②疾患モデル・精神力動モデル・認知講堂モデル・社会モデルの理論と実践を理解する。 ③4つのモデルの照射を切り替えながら事例の分析と解釈を進める視点を理解する。 ④多職種が合同した症例検討場面での看護職の「専門性」を検討することができる。					
キーワード	多職種連携チームアプローチ, 疾患モデル, 精神力動モデル, 認知行動モデル, 社会モデル, 4つのモデルによる多面的な症例検討					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授業内容・授業方法			授業前後 の学習	担当
1	精神医療における多職種連携の歴史	精神看護の独自性と専門性とは (講義・演習・GW)			問題提起とディスカッション	岡田
2	多職種連携における精神看護学の基本的立場	調整的な役割 (講義・演習・GW)			同上	岡田
3	地域移行と多職種連携における精神看護実践 ①	その問題と課題 (講義・演習・GW)			同上	岡田
4	地域移行と多職種連携における精神看護実践 ②	その解決策 (講義・演習・GW)			同上	岡田
5	精神疾患をアセスメントするアプローチ	4つのモデル (講義・演習・GW)			同上	岡田
6	疾患モデルによるアセスメント ①	理論的概要 (講義・演習・GW)			同上	岡田
7	疾患モデルによるアセスメント ②	具体的なプロセス (講義・演習・GW)			同上	岡田
8	精神力動モデルによるアセスメント ①	理論的概要 (講義・演習・GW)			同上	岡田
9	精神力動モデルによるアセスメント ②	具体的なプロセス (講義・演習・GW)			同上	岡田
10	認知行動モデルによるアセスメント ①	理論的概要 (講義・演習・GW)			同上	岡田
11	認知行動モデルによるアセスメント ②	具体的なプロセス (講義・演習・GW)			同上	岡田
12	社会モデルによるアセスメント ①	理論的概要 (講義・演習・GW)			同上	岡田
13	社会モデルによるアセスメント ②	具体的なプロセス (講義・演習・GW)			同上	岡田
14	4つのモデルと精神看護アセスメントの特徴	実践への適用方法 (講義・演習・GW)			まとめ	岡田
15	多職種連携における精神看護アセスメントの役割	多職種間の専門的役割 (講義・演習・GW)			同上	岡田
履修条件		特になし				

教科書・参考図書等	<ul style="list-style-type: none"> ・タイラー，スタインバーグ著，堀弘明訳：モデルで考える精神疾患，星和書店 ・原田憲一著：精神症状の把握と理解—精神医学の知と技，中山書店 ・村上仁著：統合失調症の精神症状論，みすず書房 ・ジャネ著，松本雅彦訳：被害妄想—その背景の諸感情，みすず書房 ・ファルーン，ファッデン著，水野雅文ら監訳：インテグレイテッド・メンタルヘルスケア—病院と地域の統合をめざして，中央法規出版 ・モシヤー，ブルチ著，公衆衛生精神保健研究会訳：コミュニティ・メンタルヘルス，中央法規出版
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・問題提起時の文献検討（20%）、ディスカッション（20%）、参加姿勢（20%）を評価します。 ・自身の看護実践課題に関するレポート作成（40%）を評価します。 ・インターネットによるオンライン・ミーティングを使った遠隔授業への参加を認めます。

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選 択 の別	学年	開講 時期	科目責任者
精神看護学演習 I	M31015	2 (30)	選択	1	前期	教授 岡田 実
担当教員 職位・氏名	教授 岡田 実 講師 長南幸恵					
授業概要	ACTや精神科に特化した訪問看護活動などのアウトリーチ方式による先進的な看護実践、および臨床現場が抱える倫理的諸問題を学修しながら、地域包括ケアに基づく地域移行を円滑に実施する方策を検討する。関連して、精神科救急・急性期治療と看護の現況を明らかにしながら、急性期像を複雑にしている自閉症スペクトラムを抱える対象への支援策を、個・家族・地域社会の広がりに沿って検討する。					
到達目標	①精神医療政策の歴史的変遷をたどり、患者の倫理的処遇基準の確立過程を理解する。 ②精神科救急・急性期の治療と看護に関する理論の到達点と実践の現況を理解する。 ②入院治療中心から地域社会への移行と定着を図る看護実践の現況を理解する。 ③自閉症スペクトラム児への個・家族・地域社会による支援のありようを考える。					
キーワード	患者処遇の倫理的基準, ACTによるアウトリーチ支援, 地域包括ケア, 統合失調症の発病・回復過程, 臨界期の治療と看護, 精神科救急・急性期看護理論と実践, 自閉症スペクトラム児への総合的支援策					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授 業 内 容 ・ 授 業 方 法			授 業 前 後 の 学 習	担 当
1	精神科救急・急性期治療の現状 ①	「改革ビジョン」まで (講義・演習・GW)			問題提起とディスカッション	岡田
2	精神科救急・急性期治療の現状 ②	「在り方検討会」以降 (講義・演習・GW)			同上	岡田
3	精神科救急・急性期看護実践の変遷 ①	患者処遇改革の変遷 (講義・演習・GW)			同上	岡田
4	精神科救急・急性期看護実践の変遷 ②	社会的入院への取り組み (講義・演習・GW)			同上	岡田
5	精神科救急・急性期看護実践の変遷 ③	訪問看護による看護実践 (講義・演習・GW)			同上	岡田
6	精神科救急・急性期看護実践の変遷 ④	ACTによる看護実践 (講義・演習・GW)			同上	岡田
7	精神科救急・急性期看護実践の変遷 ⑤	地域包括ケアの看護実践 (講義・演習・GW)			同上	岡田
8	精神科救急・急性期治療と看護の理論及び実践 ①	中井久夫の統合失調症発病過程 (講義・演習・GW)			同上	岡田
9	精神科救急・急性期治療と看護の理論及び実践 ②	中井久夫の統合失調症寛解過程 (講義・演習・GW)			同上	岡田
10	精神科救急・急性期治療と看護の理論及び実践 ③	中井久夫の臨界期治療原則 (講義・演習・GW)			同上	岡田
11	精神科救急・急性期治療と看護の理論及び実践 ④	阿保による精神構造モデル (講義・演習・GW)			同上	岡田
12	精神科救急・急性期治療と看護の理論及び実践 ⑤	精神構造モデルによる看護実践 (講義・演習・GW)			同上	岡田

13	自閉症スペクトラム児への急性期対応 ①	急性期対応 (講義・演習・GW)	問題提起と ディスカッション	長南
14	自閉症スペクトラム児への急性期対応 ②	家族対応 (講義・演習・GW)	同上	長南
15	自閉症スペクトラム児への急性期対応 ③	学校・地域社会対応 (講義・演習・GW)	同上	長南
履修条件		精神看護学特論 I を履修していること		
教科書・参考図書等		<ul style="list-style-type: none"> ・厚生労働省による精神保健医療福祉政策に関する各種の資料 ・中井久夫著：統合失調症 1・2, みすず書房, ・阿保順子・佐久間えりか編：統合失調症急性期看護マニュアル, すびか書房 ・M.F.Ward 著, 阿保・田崎・岡田ら訳：精神科臨床における救急場面の看護, 医学書院 ・岡田実著：暴力と攻撃への対処—精神科看護の経験と実践知, すびか書房 ・阿保順子編著：回復のプロセスに沿った精神科救急・急性期ケア, 精神看護出版 ・星野弘：分裂病を耕す, 日本評論社 ・横田泉：統合失調症の回復とはどういうことか, 日本評論社 ・Martin F. Ward: Nursing the Psychiatric Emergency, Butterworth & Heinemann, 1995 ・D. Antai-Otong: Psychiatric Emergencies; How to accurately assess and manage the patient in crisis. PESIHealth Care, 2004 ・T. Mason & M.Chandley: Managing violence and aggression; A manual for nurses and health care workers, Churchill Livingstone, 1999 ・J. Morrissey & P. Callaghan: Communication skills for mental health nurses, Open University Press, 2011 ・P. Callaghan: Emergencies in mental health nursing, Oxford University Press, 2012 ・田中康雄著：生活障害として診る発達障害臨床, 中山書店 ・内海健著：自閉症スペクトラムの精神病理, 医学書院 ・高岡健著：やさしい発達障害論, 批評社 		
成績評価方法		<ul style="list-style-type: none"> ・問題提起時の文献検討 (20%)、ディスカッション (20%)、参加姿勢 (20%) を評価します。 ・自身の看護実践課題に関するレポート作成 (40%) を評価します。 ・インターネットによるオンライン・ミーティングを使った遠隔授業への参加を認めます。 		

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選 択 の別	学年	開講 時期	科目責任者
精神看護学演習Ⅱ	M31016	2 (30)	選択	1	後期	教授 岡田 実
担当教員 職位・氏名	教授 岡田 実 非常勤講師 川添 郁夫					
授業概要	事例研究や症例研究をまとめ記述する方法を学修し、その方法に基づいて各自が抱えている事例をレポートし、各事例が抱える問題の解決策を互いに検討しながら、より効果的な介入策を実施する具体策を組み立てる。関連して、精神医療における専門多職種による事例研究や症例研究に学びながら、チームアプローチの在り方を学修する。					
到達目標	①臨床における症例報告の果たす役割を知る。 ②臨床実践のエビデンスを学術論文から裏づける方法を理解する。 ③他の専門職者による臨床報告を抄読しながら、チームアプローチに効果的な「共通言語」を検討することができる。 ④自験例を用いて一定の手法とルールに基づいて臨床報告を行い、他のメンバーから批評を受けることができる。					
キーワード	症例報告の作成、症例報告の発表術、学術論文の検索方法、文献検討、事例検討と症例報告、他職種による症例報告、専門多職種間の共通言語、					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授業内容・授業方法			授業前後 の学習	担当
1	精神科症例報告の書き方 ①	症例報告を記述する意味 (講義・演習・GW)			問題提起とディスカッション	岡田
2	精神科症例報告の書き方 ②	症例報告の構成 (講義・演習・GW)			同上	岡田
3	精神科症例報告の書き方 ③	症例報告の記述方法とルール (講義・演習・GW)			同上	岡田
4	精神科症例報告の書き方 ④	症例報告再生の注意点 (講義・演習・GW)			同上	岡田
5	症例報告に必要な文献検討の方法 ①	医中誌, CiNii, PubMed, CINAHL の使い方 (講義・演習・GW)			同上	川添
6	症例報告に必要な文献検討の方法 ②	文献検討と先行研究の要約 (講義・演習・GW)			同上	川添
7	症例報告に必要な文献検討の方法 ③	症例報告作成とプレゼンテーション (講義・演習・GW)			同上	川添
8	事例検討の取組みと看護実践への活用 ①	事例検討と症例報告の違い (講義・演習・GW)			同上	岡田
9	事例検討の取組みと看護実践への活用 ②	両者の看護実践への貢献 (講義・演習・GW)			同上	岡田
10	臨床医による症例報告の抄読 ①	統合失調症, 感情障害など (講義・演習・GW)			同上	岡田
11	臨床医による症例報告の抄読 ②	発達障害圏, 認知症, PTSD など (講義・演習・GW)			同上	岡田
12	他職種による症例報告の抄読 ①	臨床心理士, 薬剤師など (講義・演習・GW)			同上	川添

13	他職種による症例報告の抄読 ②	OT, PSW など (講義・演習・GW)	同上	川添
14	症例報告を作成し発表する ①	自験例の症例報告作成 (講義・演習・GW)	まとめ	共同
15	症例報告を作成し発表する ②	自験例の発表とディスカッション (講義・演習・GW)	同上	共同
履修条件		精神看護学特論Ⅱを履修していること		
教科書・参考図書等		<ul style="list-style-type: none"> ・仙波純一著：精神科症例報告の上手な書き方，星和書店 ・福田正人編著：精神科の専門家をめざす，星和書店 ・青木省三著：精神科臨床ノート，日本評論社 ・『精神科治療学』（星和書店）に掲載されている各種症例報告 ・『精神医学』（医学書院）に掲載されている各種症例報告 		
成績評価方法		<ul style="list-style-type: none"> ・問題提起時の文献検討（20%）、ディスカッション（20%）、参加姿勢（20%）を評価します。 ・自身の看護実践課題に関するレポート作成（40%）を評価します。 ・インターネットによるオンライン・ミーティングを使った遠隔授業への参加を認めます。 		

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	担当教員 職位・氏名
看護管理学特論Ⅰ (看護部署管理論)	M41001	2 (30)	選択	1	前期	教授 伊藤 収
授業概要	認定看護管理者教育課程ファーストレベルで求められる看護管理者に必要とされる、基本的な知識・技術・態度と看護の組織運営について、病棟・外来等の「部署管理」の観点を中心に学びつつ、看護の利用者と直接に関わる看護師長職・師長補佐職の管理対応を確認しつつ、さらに所属看護師等の相談への応需についても学修する。加えて、フローレンス・ナイチンゲールの著作の中から「看護管理」に該当する部分等を資料として、看護管理の歴史的展開についても学修する。					
到達目標	看護管理の歴史的経緯が理解できる 医療機関における部署管理が概観できる 人材育成に関する原則が理解できる					
キーワード	ナイチンゲール、部署管理、人材育成					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授業内容・授業方法			授業前後 の学習	担当
1	看護管理の歴史的① フローレンス・ナイチンゲールの著作の中から「看護管理」に関するものを学習する	文献に基づき、ナイチンゲールの看護管理観に迫る講義を実施する			文献の学習	伊藤
2	看護管理の歴史的② 前回の授業資料と履修生の実際とを比較し討議する	前回の講義に基づく討議			討議準備	伊藤
3	部署管理とは① 医療機関における看護師長の役割	資料に基づく講義			資料の学修	伊藤
4	部署管理とは② 前回の授業をふまえた履修生からの「実際」についてプレゼンテーションを行う	履修生のプレゼンテーション			プレゼンの準備	伊藤
5	部署管理とは③ 前2回の授業をふまえて「部署管理」について討議し、看護組織におけるリーダーシップとメンバーシップの構造を理解する。	前2回を受けての討議			討議準備	伊藤
6	部署管理方法論① 安全管理	資料に基づく講義			資料の学修	伊藤
7	部署管理方法論② 人材育成	資料に基づく講義 (高校対応から院内育成まで)			資料の学修	伊藤
8	部署管理方法論③ 情報管理	資料に基づく講義 (希望があれば「SNS 対応」についても授業する)			資料の学修	伊藤
9	部署管理方法論④ チームマネジメント	資料に基づく講義 (講義5との関連講義を行う)			資料の学修	伊藤
10	部署管理方法論⑤ カンファレンスの進行とファシリテーションについて	資料に基づく講義			資料の学修	伊藤
11	部署管理方法論⑥ 実践報告 前記①から⑤について、履修生の希望にて「実践改善」についてプレゼンテーションを行う	履修生のプレゼンテーション			プレゼンの準備	伊藤

12	部署管理方法論⑦ 前回の報告についての討議 前回の授業をふまえて①から⑤についての「実践改善」について討議する	前回を受けての討議	討議準備	伊藤
13	看護部を構成する「部署管理」の意味 医療機関における「部署管理」の本質に迫る	前回の討議からの意味抽出	討議準備	伊藤
14	看護師長が担う委員会業務等 看護師長の立場からの委員会業務改善を考察する	資料に基づく講義	資料の学修	伊藤
15	本論のまとめと評価レポートの提示	全体に関する質疑応答	質問等の準備	伊藤
履修条件	認定看護管理者を志望する学生、看護管理に関心の有る学生で看護師長以上の看護管理経験者が望ましい。			
教科書・参考図書等	履修希望者へのオリエンテーション時にて指定する。可能なかがり「大学図書館所蔵図書」・「履修生の所持図書」を用いる。			
成績評価方法	評価レポート（100%）			

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	担当教員 職位・氏名
看護管理学特論Ⅱ (看護組織調整論)	M41002	2 (30)	選択	1	前期	教授 伊藤 収
授業概要	認定看護管理者教育課程セカンドレベルで求められる看護管理者に必要とされる、部署を超えた業務（各種委員会活動・実習校との調整など）における組織調整を中心に学修する。そして、実際の看護次長職・教育師長職が行っている部署を超えた組織調整を確認しつつ、その意思疎通・意見集約に必要な知識・技術・態度を広範に学修する。					
到達目標	教育担当次長・師長（以下、教育次長・師長）の役割が理解できる 情報担当次長・師長（以下、情報次長・師長）の役割が理解できる 次長職・師長職としての「部長支援」について概観できる 実習受け入れに関する看護管理の概要が理解できる 看護管理者が実践するコンサルテーションが概観できる					
キーワード	院内教育、情報管理、コンサルテーション					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授業内容・授業方法			授業前後 の学習	担当
1	教育次長・師長論① クリニカルラダー（病院）より 【ニーズの捉え方】・【ケアする力の向上】について	資料（日本看護協会編）に基づく 講義と討議			資料の学習	伊藤
2	教育次長・師長論② クリニカルラダー（病院）より 【協働】・【意思決定への援助】について	資料（日本看護協会編）に基づく 講義と討議			資料の学習	伊藤
3	教育次長・師長論③ 新規採用者研修	資料に基づく講義と討議			資料の学習	伊藤
4	教育次長・師長論④ 教育師長とは	資料に基づく講義と討議 （履修生の所属施設・部署に応 じて講義する）			資料の学習 履修生のプ レゼン準備	伊藤
5	情報次長・師長論① 情報コンピテンシー	資料に基づく講義と討議			資料の学習	伊藤
6	情報次長・師長論② 院内情報管理の中での看護情 報	資料に基づく講義と討議 （電子カルテの運用を中心に）			資料の学習 履修生のプ レゼン準備	伊藤
7	院内研究指導について（初級）「テーマ・担当者の選 定、研究担当者支援教育について」	文献に基づく講義 （履修生の論文作成にも資する ように講義する）			資料の学習	伊藤
8	実習受け入れと学生配置について	履修生の実際および資料に基づ く講義			資料の学習 履修生のプ レゼン準備	伊藤
9	部長支援論①（目標管理と評価）への支援	資料に基づく講義と討議 （希望があれば「評価面接」につ いても授業する）			資料の学習	伊藤
10	部長支援論②（配置と異動）への支援	資料に基づく講義と討議 （希望があれば「キャリア形成 との関連」についても授業する）			資料の学習	伊藤
11	部長支援論③（院内他部との調整）への支援	資料に基づく講義と討議 （栄養科との連携を中心に）			資料の学習	伊藤
12	看護管理コンサルテーション① メンタルヘルス上の支援が必要な看護資格者への コンサルテーション	事例に基づく講義と討議 （自殺防止についても言及す る）			資料の学習	伊藤

13	看護管理コンサルテーション② スペシャリスト管理としてのコンサルテーション	履修生の所属施設のスペシャリスト養成の実態に応じて	資料の学習 履修生のプレゼン準備	伊藤
14	看護管理コンサルテーション 他部署との間でのコンサルテーション	資料に基づく講義と討議 (事務部医事課との連携を中心に)	資料の学習	伊藤
15	本論のまとめと評価レポートの提示	全体に関する質疑応答	質問の準備	伊藤
履修条件	認定看護管理者を志望する学生、看護管理に関心の有る学生で看護師長以上の看護管理経験者が望ましい			
教科書・参考図書等	履修希望者へのオリエンテーション時にて指定する。可能なかがり「大学図書館所蔵図書」・「履修生の所持図書」を用いる			
成績評価方法	評価レポート (100%)			

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	担当教員 職位・氏名
看護管理学特論Ⅲ (看護施設管理論)	M41003	2 (30)	選択	1	前期	教授 伊藤 収
授業概要	認定看護管理者教育課程サードレベルで求められる看護管理者に必要とされる、自施設が地域社会から求められているヘルスケアサービスを正しく理解し、それを看護部の理念や年度計画に反映させる過程を学修する。そして、その理念や年度計画を具現化するための看護組織の構築と運営についてと施設の経営参画についても学修する。加えて、所属施設がある都道府県の保健福祉看護政策の中から履修生が重要と考える政策について、厚生労働省等から出されている通知類と対照させながら、その施策動向の理解を進めると同時に、看護部として果たせる役割等についても学修する。					
到達目標	看護部長（副院長）職の役割の概要が理解できる 医療機関内での看護部の運営の概要が理解できる 看護組織の院外連携（地方公共団体・看護教育機関・看護協会）について理解できる					
キーワード	看護部管理、ユニフィケーション、経営参画					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授業内容・授業方法			授業前後 の学習	担当
1	看護部管理論① 人事管理、異動に関する留意点	資料に基づく講義と討議 (履修生の所属施設に応じて講義する)			資料の学習 履修生のプレゼン準備	伊藤
2	看護部管理論② 目標管理・人事考課	資料に基づく講義と討議 (履修生の所属施設に応じて講義する)			資料の学習 履修生のプレゼン準備	伊藤
3	看護部管理論③ 理念・目標の創成、及び看護部内の合意形成と師長会議の運営について	資料に基づく講義と討議 (履修生の所属施設に応じて講義する)			資料の学習 履修生のプレゼン準備	伊藤
4	看護ユニフィケーション論① 看護実践の中から行う研究について	資料に基づく講義と討議 (法人別に検討する)			資料の学習	伊藤
5	看護ユニフィケーション論② 看護実践の中での現任教育、基礎教育	資料に基づく講義と討議 (連携の相手先について)			資料の学習	伊藤
6	看護ユニフィケーション論③ 研究成果の実践応用について	資料に基づく講義と討議 (EBP と EBN 及び治験について)			資料の学習	伊藤
7	病院運営・経営参画論① 経営戦略への参画、外部委託の導入について	資料に基づく講義と討議 (診療報酬制度と看護組織)			資料の学習	伊藤
8	病院運営・経営参画論② 地域の医療ニーズの把握、市区町村レベルの医療・看護・福祉政策の把握と看護部の将来構想への反映	資料に基づく講義と討議 (履修生の所属施設に応じて講義する)			資料の学習 履修生のプレゼン準備	伊藤
9	病院運営・経営参画論③ 都道府県・国レベルの医療・看護・福祉政策の把握と看護部の将来構想への反映	資料に基づく講義と討議 (履修生の所属施設に応じて講義する)			資料の学習 履修生のプレゼン準備	伊藤
10	病院運営・経営参画論④ 研究倫理関連、広報関連、人材確保について	資料に基づく講義と討議 (履修生の所属施設に応じて講義する)			資料の学習 履修生のプレゼン準備	伊藤
11	院外活動論① 看護養成施設への支援活動	資料に基づく講義と討議 (履修生の所属施設に応じて講義する)			資料の学習 履修生のプレゼン準備	伊藤

12	院外活動論② 看護協会との協働、及び活動支援について	資料に基づく講義と討議 (岩手県を例に講義する)	資料の学習	伊藤
13	院外活動論③ 地方公共団体等の協議会・審議会等への参画	資料に基づく講義と討議 (履修生の所属施設に応じて講義する)	資料の学習 履修生のプレゼン準備	伊藤
14	自施設の看護部を客観化するためのデータ化・見える化	資料に基づく講義と討議 (履修生の所属施設に応じて講義する)	資料の学習 履修生のプレゼン準備	伊藤
15	まとめとして 自施設の看護組織の客観化と将来展望 評価レポートの提示	履修生の所属施設の「理念」・「年度計画」に応じて講義する	質問の準備	伊藤
履修条件	認定看護管理者を志望する学生、看護管理に関心の有る学生で看護師長以上の看護管理経験者が望ましい			
教科書・参考図書等	履修希望者へのオリエンテーション時にて指定する。可能なかがり「大学図書館所蔵図書」・「履修生の所持図書」を用いる			
成績評価方法	評価レポートにて100%			

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	担当教員 職位・氏名
看護管理学演習	M41004	2 (30)	選択	1	後期	教授 伊藤 収
担当教員 職位・氏名	教授 伊藤 収 准教授 土田 幸子					
授業概要	看護管理特論（Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ）の学修の中から、履修生の実際に即したレベルでの看護管理課題を見出し、その改善計画の立案を、下記①～⑥に基づいて行う。①資料・文献類のクリティーク、②組織分析と計画策定の妥当性。③動機や目的の根拠となるものの客観性、④方法と期待される成果の現実性、⑤改善計画案の文章とし完成度と目的との整合性、⑥パワーポイント等を用いた理解しやすいプレゼンテーションの実施。					
到達目標	部署内の諸業務の改善計画の策定について理解できる 看護部内の「教育・情報・研究・人事」等の委員会活動の運営と改善について理解できる 経営への参画について理解できる 対外組織（地方公共団体・看護教育機関・看護協会）との協働について理解できる					
キーワード	業務改善、委員会活動、対外協力					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授業内容・授業方法		授業前後 の学習	担当	
1	看護部内の改善論① 部署（病棟・外来・訪問）などでの業務管理・安全管理・人事管理の中から履修生の希望によって	履修生の作成した資料・プレゼンテーションを基にした討議		資料の学習 履修生のプレゼン準備	伊藤	
2	看護部内の改善論② 文献等から自己の客観化を図る	前回の授業の経過から改善につながる文献等をクリティーク		資料の学習 履修生のプレゼン準備	伊藤	
3	看護部内の改善論③ 改善の方向性を見いだす	前2回の授業を受けて、具体的・現実的な改善計画を模索		資料の学習 履修生のプレゼン準備	伊藤	
4	看護部内の改善論④ 改善計画の策定	前3回の授業のまとめとして 当該部署の改善計画を策定		資料の学習 履修生のプレゼン準備	伊藤	
5	看護部内の改善論⑤ プレゼンテーション	パワーポイントを用いたプレゼンテーション		プレゼンテーション準備	共同	
6	医療機関内における教育制度・研究活動・情報管理への改善提言① (履修生の希望により上記の3部門から1つを選択して)	現状分析と改善点の見直し		資料の学習 履修生のプレゼン準備	共同	
7	医療機関内における教育制度・研究活動・情報管理への改善提言② (履修生の希望により上記の3部門から1つを選択して)	前回に見いだした改善点の資料となる文献等の検討		履修生のプレゼン準備	共同	
8	医療機関内における教育制度・研究活動・情報管理への改善提言③ (履修生の希望により上記の3部門から1つを選択して)	改善計画の策定		履修生のプレゼン準備	共同	

9	医療機関内における教育制度・研究活動・情報管理への改善提言④ (履修生の希望により上記の3部門から1つを選択して)	策定した計画についてのクリティーク	前回の意見を資料化する	共同
10	地域医療の中でのニード①	ニードを見いだすための情報収集の仕方・看護部としての広報活動、オープンホスピタルについて	資料の学習 履修生のプレゼン準備	伊藤
11	地域医療の中でのニード②	前回の授業を基に把握した地域ニードを院内運営会議・経営会議へ提言	履修生のプレゼン準備	伊藤
12	地域医療の中でのニード③ プレゼンテーション	前回の提言についてパワーポイントを用いたプレゼンテーション	プレゼンテーション準備	伊藤
13	実践看護管理の発展① (看護科学の担い手としての看護管理者)	看護管理の看護科学的側面について討議	資料の学習	伊藤
14	実践看護管理の発展② (看護哲学の担い手としての看護管理者)	看護管理の看護哲学的側面について討議	資料の学習	伊藤
15	まとめ 看護管理・看護管理者とは何か 評価レポートの提示	看護管理学特論 ((I・II・III)も含めた学習全体の総括	質問・意見の準備	伊藤
履修条件		看護管理学特論Ⅰ、看護管理学特論Ⅱ、看護管理学特論Ⅲを履修していること		
教科書・参考図書等		履修希望者へのオリエンテーション時にて指定する。可能なかがり「大学図書館所蔵図書」・「履修生の所持図書」を用いる		
成績評価方法		評価レポートにて100%		

研 究 科 目

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講時期
看護学特別研究	M51001	8 (120)	必修	2	通年
担当教員 職位・氏名	教授 濱中喜代、勝野とわ子、江守陽子 岡田 実、伊藤 收、鈴木るり子 准教授 木内千晶、土田幸子 講師 石井真紀子、長南幸恵、相澤 出、下野純平 助教 大谷良子、佐藤 恵				
授業概要	研究対象とした看護学領域における特定の研究課題を抽出し、それに関連した国内外の先行研究の文献検索を実施する。文献の精読、検討を通し、自分の研究課題を解決するための研究デザインを考え、研究計画書を作成する。研究開始にあたっては、倫理的問題に配慮しながらデータ収集・分析・結果をまとめる。論文構成は、序論、方法、結果、考察、看護実践への提言、結論とする。さらに研究の成果を公表する手段として、プレゼンテーションを実施し、他者からの評価を受ける。				
到達目標	1. 探求したい研究課題に関して、研究デザインを決定できる 2. 研究課題を解明するに適切な研究方法を選択し、倫理的配慮を含めた研究計画書を作成できる 3. 対象者に倫理的配慮をしたうえで適切な手順でデータを収集し、客観的・科学的に分析できる 4. 研究結果を記述し、客観的・科学的な考察を加えて論文を作成できる 5. 研究の結論から、看護実践への提言と研究の限界について説明できる 6. 研究成果を口頭で報告できる				
キーワード	研究デザイン、研究計画、研究倫理審査、論文作成、プレゼンテーション				
授 業 計 画					
回	授業項目	授業内容・授業方法		授業前後 の学習	担当
1～ 4	研究課題の決定	研究課題を決定し、文献検討から、研究背景を明らかにする 1. 先行研究・文献検討 2. 研究枠組み検討 (演習)		授業前後の学修に必要な内容については適時助言する	各教員
5～ 8	研究方法の検討	研究の目的・意義に沿って、以下を明確にする 1. 研究方法/研究デザイン・データ収集の方法・期間・データ分析の方法 2. アンケート、インタビューガイド等の作成 (演習)		同 上	各教員
9～ 12	研究デザインの検討	研究の目的・意義に沿って、以下を明確にする 1. 研究方法/研究デザイン・データ収集の方法・期間・データ分析の方法 2. アンケート、インタビューガイド等の作成 (演習)		同 上	各教員
13 ～ 16	データ収集方法の検討	研究の目的・意義に沿って、以下を明確にする 1. 研究方法/研究デザイン・データ収集の方法・期間・データ分析の方法 2. アンケート、インタビューガイド等の作成 (演習)		同 上	各教員

17 ～ 20	研究の倫理的配慮・手続きの検討	研究の倫理的配慮・手続きの方法を明確にする 1. 安全性の確保（予想される有害現象と対策） 2. 人権・プライバシー保護に関する配慮 3. 研究依頼に関する検討（研究協力者・施設長への依頼文書の作成等） (演習)	同 上	各教員
21 ～ 24	具体的なデータ収集方法の検討 (質問紙作成、インタビューガイド作成など、プレテスト)	1. 質問項目作成、インタビューガイド作成 2. プレテスト (演習)	同 上	各教員
25 ～ 28	研究計画書の作成	計画書作成 (演習)	同 上	各教員
29 ～ 32	倫理審査委員会提出書類の作成・申請	申請書作成 申請手続きに則り申請する（必要時） (演習)	同 上	各教員
33 ～ 36	データ収集・整理①	倫理的問題に配慮しながら、計画どおりデータ収集・整理・分析を行う (演習)	同 上	各教員
37 ～ 40	データ収集・整理②	倫理的問題に配慮しながら、計画どおりデータ収集・整理・分析を行う (演習)	同 上	各教員
41 ～ 44	データ分析 研究デザインに応じたデータ作成	データの分析・図表作成を行う (演習)	同 上	各教員
45 ～ 48	修士論文の作成	得られたデータを分析し結果をまとめ考察する (演習)	同 上	各教員
49 ～ 52	修士論文の作成	得られたデータを分析し結果をまとめ考察する 序論、方法、結果、考察、看護実践への提言、結論 について文章化する (演習)	同 上	各教員
53 ～ 56	口頭発表準備	プレゼンテーションの準備をし、実施する (演習)	同 上	各教員
57 ～ 60	発表と評価	評価を受け、より完成度の高い論文に修正する (演習)	同 上	各教員
履修条件		専門科目のうちから各自の専門研究領域の「特論Ⅰ・Ⅱ」「演習Ⅰ・Ⅱ」各2単位を含む8単位を履修していること		
教科書・参考図書等		特に指定しない アメリカ心理学会（APA）著、前田樹海ほか訳：APA論文作成マニュアル 医学書院		
成績評価方法		作成された論文内容を以下の基準で審査する 1. 研究内容が看護学に寄与するものである 2. 研究の意義・目的・方法が明確・適切である 3. 倫理的配慮を含めた研究計画書が作成されている 4. データが客観的・科学的に分析されている 5. 研究成果を口頭で報告することができる		

